

平成26年度

てだこ市民大学 第5期卒業生研究発表会

てだこの都市の「夢・まち・人」づくりにあなたの力を！

市民大学の理念・目的

「てだこ市民大学」は、本市の「夢・まち・人」づくりの一環として、市民の学習ニーズの高度化・多様化への対応と学ぶ喜びの促進、自己実現への支援を行うとともに、そこでの学習成果を地域社会や学校教育等に還元し、本市のまちづくりに寄与できる有為な人材を育成することを目的とする。



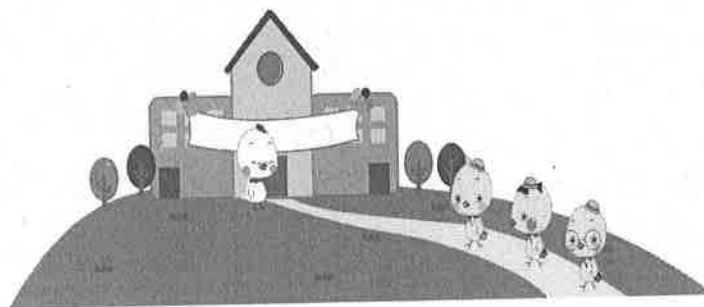
日 時：平成27年3月1日（日）午後2時～5時

場 所：てだこホール 市民交流室

主 催：浦添市てだこ市民大学

～ 目 次 ～

- 1、各学部代表者テーマ一覧・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2、各学部代表者の卒業研究内容
 - ①コミュニティビジネス・地域振興学部・・・・・・・・・・・・・ 2
 - ②健康福祉・スポーツ振興学部・・・・・・・・・・・・・ 22
 - ③文化振興・教養学部・・・・・・・・・・・・・ 42
 - ④地域・学校支援コーディネーター養成学部・・・・・・・・・・・・・ 55
- 3、各学部の卒業研究概要集
 - ①コミュニティビジネス・地域振興学部・・・・・・・・・・・・・ 67
 - ②健康福祉・スポーツ振興学部・・・・・・・・・・・・・ 70
 - ③文化振興・教養学部・・・・・・・・・・・・・ 78
 - ④地域・学校支援コーディネーター養成学部・・・・・・・・・・・・・ 94



平成26年度

各学部代表者テーマ一覧

学部名	テ　　マ	発表者
ス・地域振興学部 コミュニティビジネ	浦添市民の1割をバイリンガルにする	諸見川清徳
	更生保護活動を通して地域を支える ～潤いのある地域をめざして～	岡田ひろ子
スポーツ振興学部 健康福祉・	スポーツクラブを通じた地域コミュニティづくり ～浦添市の人づくり・健康づくり・安心づくりに貢献～	久貝登志夫
	「浦添市版 認知症の方が安心して暮らせるまちづくり」 ～民生委員・児童委員活動を通じた地域福祉活動～	当山 弘枝
教養学部 文化振興・	地域にある文化史跡を知り、伝えよう	亀川 郁子
	浦添てだこまつりの沿革と課題について	宮城 良典
ディネータ養成学部 地域・学校支援コー	地域の子を地域のネットワークで見守っていくために ～ボランティア活動からネットワークづくりを通して～	野村 和美
	遊び心の躍動 一風と光と人をつなげよう ～「新春たこあげ2015」の実施を通して～	國吉 稔 簗毛美香子





卒業研究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部

氏 名： 諸見川 清徳

1. テーマ

浦添市民の1割をバイリンガルにする
～英語は乳幼児から～

2. テーマ設定理由

- 1) インターネットを始めとする通信機器の発達で世界が同時進行する中で国内だけの情報だけでは持続的な発展はできない時代になった。
- 2) 浦添市では「太陽と緑にあふれた国際性ゆたかな文化都市」、県では英語立県構想、国では小学校の英語教育導入を進めている。
- 3) 我が家ではすでにバイリンガルを実施している。

※詳細は次ページ参照

3. 項立て（研究内容）

- (1) 自分の4年前の新聞投稿を振り返る
- (2) 我が家のバイリンガルの状況
- (3) モンテッソーリ法とバイリンガルの関係づけ
- (4) 我が家の英語環境を浦添市で展開すれば市民の1割をバイリンガルに出来る。
- (5) 浦添市に英語村を構築する
- (6) サポート人材の確保

卒業研究のテーマに選んだ背景

1. インターネットを初めとする通信機器の発達で世界が同時進行

- 大企業から個人に至るまで海外のテレビ放送・インターネット等を通して自分たちが必要な情報収集を収集できる時代になり、沖縄県にいても言葉の障壁（主に英語）を取り除けば過っての離島県として、味わった情報格差がなくなり今までにハンディと思われた部分が逆にプラス要因として働く可能性がある。

2. 浦添市の国際豊かな文化都市、県の英語立県構想、国の小学校への英語教育の導入

- 浦添市がこれまで進めた国際豊かな文化都市構想の実現に向けた取り組みに合わせて市の内外でグローバル化の波が一挙に押し寄せてグローバルな視点で情報を収集及び発信する力を着けることでビジネスチャンスへの即対応、及びゆたかな生活を営むことが可能となる。

3. 我が家ではすでにバイリンガルを実施

- 私が、ライフワークとしてIT技術を使って英語をマスターするとしてスタートした
英語との本格的な関わりが約20数年も経過している。その間に結婚し、子供も生まれた。子供が生まれたのを契機にこの子をバイリンガルに育てようと決意し、家庭内では出来るだけ英語で会話するよう心がけた。子供も間もなく満7歳になり私立のバイリンガルの小学校に進んで順調にバイリンガルで育っている。
私も間もなく70歳に到達するが、自分が習得した英語、子供をバイリンガルに育てた経験を家族だけでしまっておくのがもったいない気がして地域社会に活かせる方法があるのではと思い今回の卒業テーマに選んだ。

浦添市民の1割（11,000人）をバイリンガルにする研究

1. 約30年近くCNNの研究をし、3年前（2011年5月18日）の新聞投稿をした。

2011年5月18日

小学生のころ、日本語が話せず、島の方言で級友と会話して頻繁に方言札をもらった。必死で日本語の会話を学ぶために、遠く離れた共同売店の親子ラジオを

聞いて会話を覚えて経験があり、以来言葉は耳で聞いて覚えるものと思



諸見川 清徳

高校卒業後、米軍基地に就職して米国人と英語で会話する機会があり、英語を聞いて話す環境が維持できれば英語も習得できると思っていたが、IT技術者として民間で仕事するようになって英語のことはすっかり忘れていた。

論壇

聞き取る力は乳幼児で十分

バイリンガルに子どもを育てる

CNNテレビの24時間の英語放送が日本でも視聴できる。同時に聞かせれば省けるので、その情報を得て、小学生のころはと違って、62歳で生まれたものの経験とタブラサテで毎日この子どもには英語で話し掛け、の英語放送を見れば理解できると信じて、42歳からCNN 飲みながらCNNのニュー

の英語放送を日本語並みに理解することに挑戦した。以来23年間毎日視聴し続け、ほとんど理解できるまでになった。

しかし、それに投入した時間と苦労もたくさんあった。こんな苦労は言葉を覚える幼

児のころに、英語と日本語を同時に聞かせれば省けるので、英語が出てくるか日本語が出てくるか待ちかねていた。同時に聞かせれば省けるので、英語が出てきてホッとした。しかし、満2歳になるまでは日本語の保育園に通園させたら日本語が優位になっ

てきた。それで英語を中心とする保育園に通わせると、英語が中心に変わった。満3歳に近づくとつれて英語でも日本語でもしゃべれるようになり、このころから英語と日本語が交ざる部分の矯正、発音を明確にするため、テレビのアニメの日本語放送も見せるようにした。

文字の認識など発達度合いに応じてアルファベットおよび

に英語が出てくるか日本語が出てくるか待ちかねていた。同時に聞かせれば省けるので、英語が出てきてホッとした。しかし、満2歳になるまでは日本語の保育園に通園させたら日本語が優位になっ

てきた。それで英語を中心とする保育園に通わせると、英語が中心に変わった。満3歳に近づくとつれて英語でも日本語でもしゃべれるようになり、このころから英語と日本語が交ざる部分の矯正、発音を明確にするため、テレビのアニメの日本語放送も見せるようにした。

文字の認識など発達度合いに応じてアルファベットおよび

自分が英語の音の聞き取りに苦労した40代の4、5年が子供の発育の段階で、自然に短期間に身に付く過程を見てきた。多言語教育は日本語がまだ確立していなくて、どの発音も容易に聞き取れる時期が最も理想である。また、経済的な負担および時間をかけずに習得できると考えるに至った。

(浦添市、専門学校一丁講 師、65歳)

- (1) 新聞投稿の結論部分「自分が英語の聞き取りに苦労した40代の4、5年が子供の発育の段階で、自然に短期間に身に付く過程を見てきた。多言語教育は日本語がまだ確立していなくて、どの発音も容易に聞き取れる時期が最も理想である。」また、経済的な負担および時間をかけずに習得できると考えるに至った。」の一般的に検証することが懸案事項だった。

2. 我が家の1階をバイリンガルの保育園に改装

家内が10年以上も北谷町にあるモンテッソーリスクールで米国人の乳幼児を中心に保育士と働き、自分の子供もそこでお世話になっていたが、そこを退職して、自宅を改造して、バイリンガルのモンテッソーリスクールを開設した。

*モンテッソーリの幼児教育はアメリカ及びヨーロッパでは広く知れわたっていて、その教育を受けた人たちの中に、例に挙げると、古くはアンネ日記の著者のアンネ・フランク、amazon.comの創始者のジェフ・ペゾス、googleの共同創立者のサーゲイ・ブリン、ラリー・ページ、現代経営学の父といわれるピーター・ドラッカー、最近ではイギリス王室の成員であるウィリアム王子・ヘンリー王子などがある。

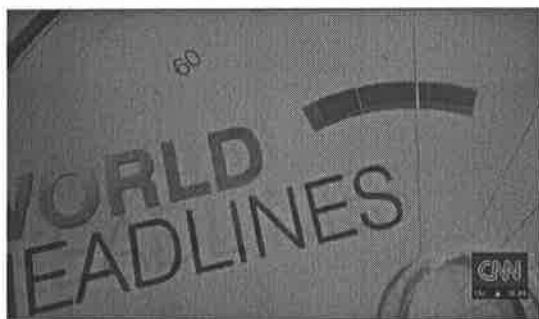
3. 上記2. を契機に専門学校でのIT講師をやめ、モンテッソーリスクールの事務面の手伝いをしながらモンテッソーリ教育の研修、県や市役所の保育に関する研修を受けて、乳幼児におけるバイリンガルを研究した。その傍ら、てだこ市民大学に入学してコミュニティビジネス・地域振興学部で学んでいる。

我が家で行っている子供のバイリンガル教育、英語を勉強している人でCNNを初めとする海外放送及びインターネットを通して直接海外からの情報収集することに関心のある社会人対象に規模を拡げて浦添市で展開すれば浦添市民の1割（11,000人）をバイリンガルに出来ると考え、卒業研究のテーマにした。

(1) 我が家のバイリンガルの状況

- ① 私が英語で海外のテレビ放送及びインターネットで世界中から関心ある情報を収集している。

テレビ



インターネット



- ② 家内が改造した自宅の1階を使ってモンテッソーリ法で幼児教育及びバイリンガル教育（英語・日本語）を実施している。

グループレッスン



個別レッスン



個別レッスン



個別レッスン



- ③ 自分の子ども（当時4歳）は英語環境で育て、家内が経営するモンテッソーリスクールでお遊びの時間に米国人の子どもと日本人の子供の通訳をしているうちに日本語（英語中心の子供に日本語をどう教えるか悩んでいた）も上手になり、日本人の子供は英語が上手になる。



(2) モンテッソーリ法とバイリンガルの関連付け

モンテッソーリ教育は人格を育てるのが基本であるが、その中から言葉の敏感期をうまく活用してバイリンガルに関連付けた。
また、この部分が自分の新聞投稿の結論部分の立証になった。

● モンテッソーリセミナーの受講

① 松浦公紀氏のモンテッソーリ教育セミナー（0～6歳）

敏感期の重要性

敏感期は、ある生物の発達段階に見られる特殊な感受性である。
この感受性の対象となる要素が環境内に存在すれば、生物はその要素に向かって、衝動的にひきつけられ、集中的に関わろうとする。そして、その対象をいとも簡単に吸収してしまう。

生物の側から言えば、特定の機能を身につけるための大切な時期になる。一つの目的が無事に果たされると、別の感受性が取って代わり、以前の感受性は消えてなくなる。

最初は、ド・フリースというオランダの生物学者によって使われた生物学用語。現在では、発達課題、臨界期という用語が同じような意味を包含するものとして位置付けられている。

② 年齢グループ別（0～3歳）と（0～6歳）別に現れる敏感期

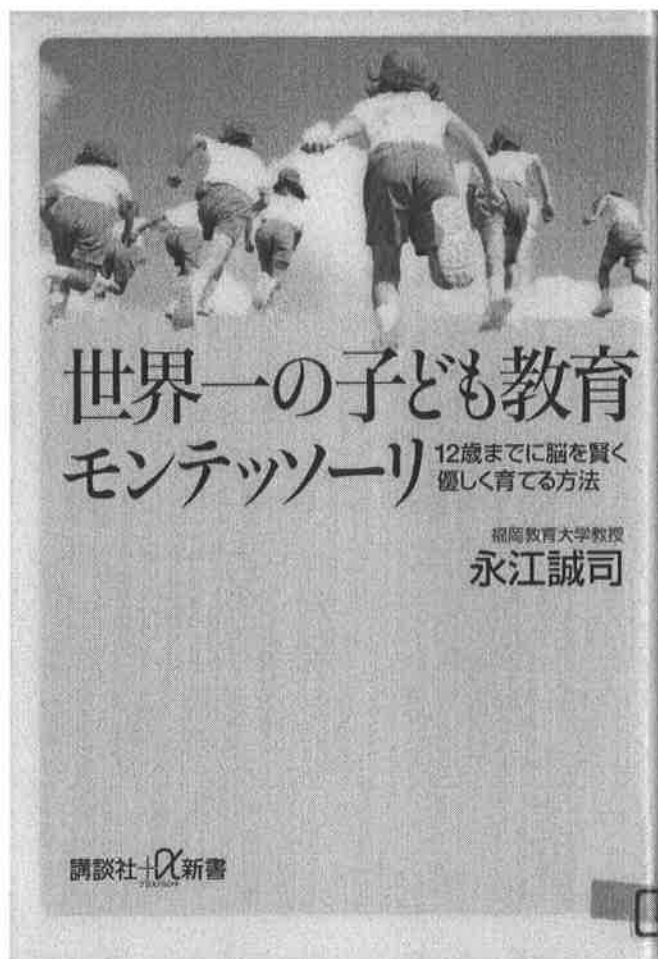
0～3で現れる敏感期

- ・ 言語の敏感期
(話しことば)
- ・ 秩序の敏感期
- ・ 運動の敏感期
- ・ 感覚の敏感期

3～6で現れる敏感期

- ・ 言語の敏感期
(文字に対しても)
- ・ 秩序の敏感期
- ・ 運動の敏感期
- ・ 感覚の敏感期

● モンテッソーリ関連書籍を読む



この書籍からの引用部分：

- ① 喃語（なんご）の発生時期に生後（1～8ヵ月頃）は世界共通の音声を発しているが、母語の獲得で母語に含まれる発音は強化されるが、母語にない発音は弱まり、又は消滅していく。
- ② 言語の敏感期（2歳頃）をことばの爆発期と特徴づけて2歳でおよそ300語、3歳で1,000語、5歳で2,000語以上習得される。
- ③ バイリンガルについて3～7歳で中国と韓国からアメリカに移住した人の追跡調査でネイティブとの差がないが、11～15歳頃では文法獲得に差があり、17歳以降の移住ではかなりの文法獲得能力が落ちるとの調査結果がる。
幼少期からの早期バイリンガルと10歳頃からバイリンガルになった後期バイリンガルでは脳の言語システムに違いもあることも解り、早期バイリンガルは一つの言語処理システムで行われるのに後期バイリンガルでは別の言語処理システムが構築されていることも解っている。

4. 我が家の英語環境を浦添市で展開すれば市民の1割（11,000人）をバイリンガルに出来る

克服しなければならない問題

- (1) 現在の教育システムでは就学未満の子どもの英語教育は親の責任で行っている状況で浦添市に一学級だけバイリンガル教育の出来る環境を構築することが可能か？
- (2) 我が家みたいに各家庭で十分な英語環境を構築することが困難である。

浦添市には多くの利用可能な英語環境がある

- (1) 浦添市には「太陽と緑にあふれた国際性豊かな文化都市」を理念に外国との交流を進めている。市の外郭団体で文化交流会などもある。
- (2) 浦添市にはアメリカ総領事館を初め、JICA、キャンプキンジャーなどの施設があり簡単に英語環境に接することが出来る。

5. 浦添市に英語村（ビルディング）を構築

- (1) 英語村にモンテッソーリ法でバイリンガルの保育園（敏感期をうまく活用）を設置する。
- (2) 親御さんのための英会話教室や英語での乳児ルーム（喃語発生時期に英語と日本語の環境を提示し、母語を日本語と英語にさせる）を設置する。
- (3) ビジネスマンのためにCNN、日経CNBCなどの海外放送を受信できるテレビの設置、インターネット環境を整備して親御さんも英語のブラッシュアップや情報収集・交換及びセミナーを受講できる環境を提供する。
- (4) JICAに來ている研修生の国のお土産品店等を設置して市民が直接現地の研修生と英語でコミュニケーションできる機会を提供する。
- (5) この村は原則英語が中心で来場者がリラックスできる喫茶店等を設置して、そこでの会話は英語を原則とする。
- (6) バイリンガル志向の子供たちが学校終了後、自由に英語を学んだり遊んだりできる環境を構築（外国人の子どもとも英語で会話できる機会を提供）する。

6. サポート人材の確保

- (1) 団塊の世代以降の多くの有能なシニアの再活用
- (2) 現役の有能な人材の活用
- (3) アメリカ総領事館の活用
- (4) JICAの活用
- (5) 産官学を初め近隣の英語の堪能なボランティアの活用

7. まとめ

今回の卒業研究のテーマである「多言語教育は日本語がまだ確立してなくて、どの発音も容易に聞き取れる時期が最も理想である」の思いを立証することができた。

(1) モンテッソーリ教育法との出会い

- ① モンテッソーリ教育は日本では早期教育と分類されるが西洋では人格教育として扱われるので、その教育のために来た多くの英語のネイティブの幼児と日本の子供の触れ合いを通して異文化交流及び言語発達を直に見ることが出来た。
- ② 喃語（グローバル市民の言語と言われてる）の時期は世界のどの言語も聞ける能力があるが母語の獲得で母語は強化されるが、母語にないない発音の聞く力は弱まるか又は消滅することを発見したことは大きな驚きであった。
- ③ 言語の獲得（敏感期）は6歳までが絶頂期なので獲得させたい言語を習得させるのが理想であることが分かって、この時期にバイリンガルに育てれば学校教育では現在の英語の基礎的な授業をもっと高度に出来るのではと考えるようになった。

(2) 浦添市の1割をバイリンガルにする

- ① 自分の子供をバイリンガルに育て、インターナショナルの小学校で諸外国のお友達と自由自在に英語でコミュニケーションをしているのを見て、そのノウハウを地域社会で共有出来ないかと考えた。
- ② 言語獲得の絶頂期（6歳頃まで）は学校教育が始まる前の時期で現在の行政では教育ではなく、児童福祉でカバーする分野であり、親の責任で行っているのが現状である。それを打破しないと実現が難しい。

8. 最後に

(1) 楽しく勉強できたことに感謝

浦添市民大学に入学して素晴らしい講師陣、講義内容、事務局の心のこもった勉強環境の確保、そして、いろいろな人生経験を積んだ仲間と勉強するのが楽しくて、毎週木曜日が来るのが楽しくて待ち遠しい日々が続いて、卒業研究のテーマも絞る時期が来て、いろいろ考えた末、長年研究してきた英語の研究が少しでも地域社会に役立つのではと思い恥を忍んでまとめてみた。

振り返れば、今年70代に突入する翁がとてつもない夢を展開してよそからどんなにみられるか気にしていた時もあり、そばからもテーマを研究だけに絞って次の展開（浦添市民の一割をバイリンガルにする）を変えたらとのコメントもあったが、以下の波及効果があつてあえて削除せずに選んで第二第三の諸見川が出てくることに期待を込めた。

(2) 個人的に大きな波及効果

① メタボの退治

卒業研究を絞っていた1年次の夏休み（8月ごろ）の健康診断を受診たらメタボ（標準体重を13キロオーバー）で血糖値も117を超え、内臓のほとんどの機能に警告マークが付き、糖尿病のグレーゾーンに入って、すぐ対応しないと今後、病気と共に生活することになりますよと医者に注意警告された。

おまけに、自分には20数年も続いている、肩こり・首凝りの持病もあったので、これで、自分の人生はおしまいかと、目前が真っ暗になったが、ふと我に返り決意していた卒業研究を続けたいので、今度こそ減量して、アルコールも控え、肩こり・首凝りも治癒しようと決意した。それで、てだこ大学に在学中（最初の1年）に体重を13キロ減量し、BMIを平均の22に持ってきた。2年目で首凝り・肩こりも原因を掴み治癒した。

② これまで以上の英語研究熱や新しい物へのチャレンジ精神の高揚

CNNのホームページの英文記事の中で認知症やアルツハイマーなどの病気が母国語以外の他の言語を学ぶことで脳が活性化され回避されるとの研究調査発表、最新のIT技術を初め、技術の進歩をいち早く自分の目で確かめることで、年齢を重ねても世の中の変化に対応する旺盛なチャレンジ精神が湧いてきた。

謝辞

今回の卒業研究を取りまとめるに至り、忙しい中、貴重な時間を割いて丁寧な、つたない文章を読んでくださってアドバイスを頂いたり、勇気をもたらったりした方々、親泊元彦氏（経営支援研究所長）、宮里徳夫氏（（社）沖縄県経営者協会かりゆし塾 専任講師）、仲尾次嗣明氏（サイテクカレッジ那覇 学院長）最後に浦添市民大学事務局の職員に改めて感謝いたします。



卒業研究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部

氏 名：岡 田 ひろ子

1. テーマ

更生保護活動を通して地域を支える
～潤いのある地域をめざして～

2. テーマ設定理由

平成 17 年度から牧港地域で更生保護（保護司）の活動を行い、多くの方々の就学や就労活動に向けた支援をしてきました。その活動を通して支援される側が生き生きと社会に羽ばたき仕事に就き、元気よく頑張っている成果を発表することにしました。

3. 項立て（概要でも良い）

1. はじめに
2. 内容 ①（学習支援：家庭教師の場合）
3. 内容 ②（就学：就労の場合）
4. 青少年の居場所を提供
（地域の青年エイサーに繋ぐ）
5. 子どもの貧困の解消のため学力を身につける
6. 終わりに（まとめ）

更生保護活動を通して地域を支える

～ 潤いのある地域をめざして ～

学部名：コミュニティービジネス・地域振興学部

氏 名：岡 田 ひろ子

1. テーマ設定理由

平成 17 年度から牧港地域で更生保護（保護司）の活動を行い、多くの方々の更生に関わり、また青少年の就学や就労活動に向けた支援をしてきました。その活動を通して支援される側が生き活きと社会に羽ばたき仕事に就き、元気よく頑張っている成果を発表することにしました。

2. はじめに

私は昭和 63 年に宜野湾市から浦添市牧港に移り住み、地域を知るため、自治会活動・婦人会を行ってきました。そして 14 年には「沖縄県女性海外セミナー女性の翼」の団員として福祉の先進国：北欧（ノルウェー。スウェーデン）に派遣されました。そこから福祉の原点だったのである。

「寄稿文：新聞記事タイムス：資料 1」

現在、更生保護（保護司）を受け持って 9 年になりました。
浦添市てだこ市民大学に入学して「コミュニティー・ビジス」として展開したことを発表することにしました。

・ 青少年の更生保護活動とは

更生保護活動は、非行のある少年を社会の中で適切に処遇することにより再犯を防ぎ、青少年が自立し改善更生を助けることである。保護観察所から更生依頼があった時、対象者を自宅に案内し更生に向け、面談（往訪・来訪）と交互に支援していくことである。

私が更生保護活動を通して展開した具体的活な活動

3. 家庭教師の派遣（内容①）

- ・ 少年は高校生である。保護観察中。
少年に基礎学力をつけ学校の授業についていけるように家庭教師を派遣することにした。
- ・ 高校を卒業して社会に適応し働けるように「読み・書き・計算」の基礎学力をつけさせようと保護者に提案した。

（学習到達度：資料2）

元小学校の教員に家庭教師を依頼し自宅へ派遣。（新聞記事タイムス：資料3）

また、やもなく高校を中退せざる得ない高校生は、中退前の高校の単位をそのまま次の高校に移せるように就学活動も行っている。



4. 就学：就労支援（内容②）

近畿大学豊岡短期大学通信課程に繋ぎ、高校から短期大学卒業までの卒業資格が取得される喜びもある。卒業後は、保育士と幼稚園教諭の資格が得られるので社会に出てすぐ働ける好条件もある。
卒業後少年は保育士として保育園に採用され働いている。

これまでいろいろな逆境を乗り越えて来た少年は保育園園児から「先生！」と呼ばれることに喜びと希望がもてたようで前向きな人生に変容した。

近畿大学豊岡短期大学を卒業した少年は、学費はすべて自力でバイトをしながら卒業できたことは、よく頑張ったと評価したい。

成果として

- ・ ホップ：家庭教師・・・学力をつける
- ・ ステップ：高等教育への就学支援
- ・ ジャンプ：就労支援 ⇒ めでたく社会参加

※ 就労支援とは働くことを通して生活の安定を図るとともに、人・社会との繋がりや、新たな可能性を生み出す取り組みとして行うこと
→「就労支援は人生支援」といえます

5. 青少年の居場所の提供

少年は高校から帰宅すると部活もしてないので、ただただ家で過ごすのみで、時間をもてあます状況にある。再犯を防ぐためにも居場所の提供を考え、地域「牧港青年会エイサー」に協力お願いし青年会長からエイサーの手ほどき受けエイサーを舞う。「浦添市てだこ祭りに出場できるように頑張ろうね」と励まし参加させている。



6. 子どもの貧困の連鎖を解消のため学力をつける。

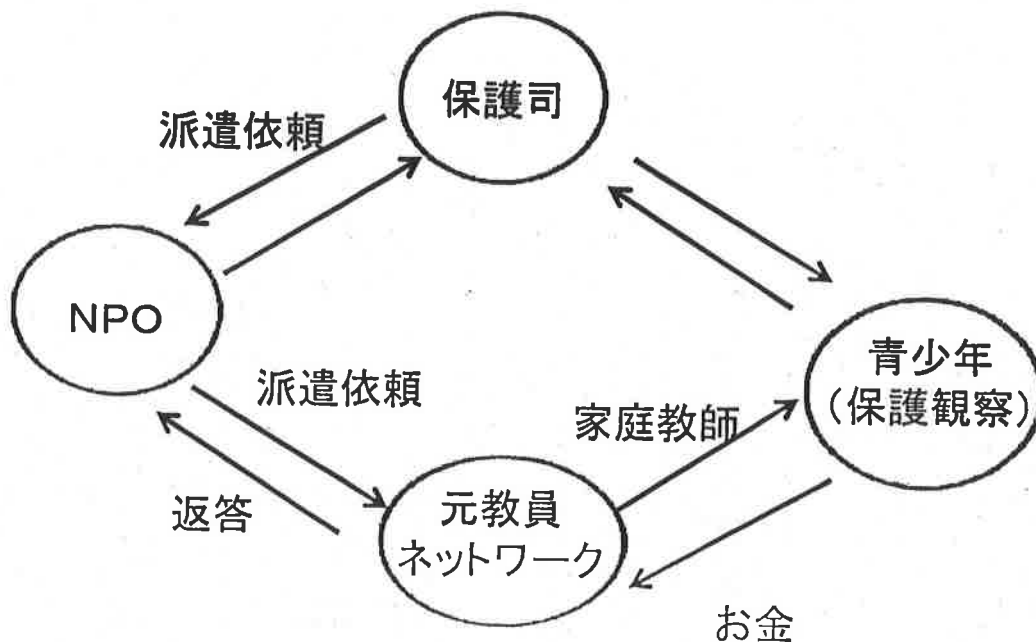
(参考までに下記掲載)

- ・生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）：資料4
- ・生活困窮家庭の子どもへの「学習支援事業」その他（施行期日…平成27年4月）：資料5

7. 終わりに (まとめ)

私の3つ(家庭教師派遣・就学・就労支援・居場所の提供)の具体的な活動を通しての結論。

貧困の連鎖を解消し、将来経済的に安定した生活を送るためには学力(高校卒業)をつけるしかないと強調したい。そしてそのためには私の活動を将来NPOを活用し更に広く展開し、地域に貢献したい。



参考資料

- 1 寄稿文：新聞記事タイムス
- 2 学習到達度
- 3 新聞記事タイムス
- 4 生活困窮者自立支援法（平成25年法律105号）
- 5 生活困窮家庭の子どもへの「学習支援事業」その他（施行期日・・・平成25年4月）

2002年（平成14年） 12月25日 水曜日

寄稿



岡田ひろ子

よい手本になる北欧の2国

うか。また、なにを知っているフロンティア国齡者問題、公共交通の徹ら」など、いろいろな愚昇（2・9％）しているいますか」の問いかけが家、それがノルウェーやスウェーデンであるから環境にやさしいエコロジした。そのまま居ついた出を残して北欧を後にあつた。ノーベル賞の国、スウェーデンだと思つた。お手本なの臨海都市など、人口はい氣持ちにさせる条件にあり、バスも段差がないので乳母車ごと入れる。

訪問で来沖したスウェーデン公使はシンクルファザ一だった、クリツクの策課題の多くを西國はずに経験し実践してきた。男姓だつたらどうだら

音楽家は有名である、森と湖の美しい国、バイキング博物館、クログネル、たとえば二十年かけて人類の文明史上、スウェー

女性たちの激しい奮闘、

生まれたのであろう。

外セミナー「女性の翼」
北欧の旅、団員の一員として北欧ノルウェー、スウェーデン二カ国を訪問した。ここ数十年沖縄は訪問国を北欧にしている。なぜ、ノルウェー・スウェーデンなのか、疑問を持ちながら北欧に向かった。

公園、環境問題の盛んな国、そして何といつても「豊かな福祉社会」のイメージが圧倒的なようにある。

琉球大学心理学科教授の事前研修の講義の中にも「北欧についてどんなイメージをお持ちでしょう」という質問があった。日本を含め世界の多くの国が北欧を語る理由の一つは、多くの国や県がいずれ直面するであろう問題の多くをすでに経験

苦勞のなかで築かれた男
女平等問題、パパ・クォ
ータ制度（父親のみに与
えられた育児休業の権利
である父親の育児休暇
制）、母親の労働時間に
関する国として定評があ
る。また実験をしてきた
北欧は「風呂・飯・寝
さたくま」して男女共同参
画づくりが一層結実する
のではないだろうか。今
度の団員のなかで、策
してみた。限りなく遠
学んだことを、男女平等

合わすことのできる保育 日本には帰りたいくない 方まで車いすだけで移動 参画社会構築に生かすこと
園問題、ごみ・環境問題 ね。二代だったところ できるようにシステムが とともに、地域活動に貢献
題、原則として寝たきりに住みたい、土地を買っ つづられていた非常にや していきたい。

老人はいない、癪過ぎる。て家を建てたいね、老後、さしい社会である。（浦添市婦人連合会牧港と時間を計つて起こす高まで安心して暮らせるか、最近では出生率が反転上、婦人会長）



NORWAY

～ノルウェー・スウェーデン～



SWEDEN

学習の到達度目標

目標：①「読み・書き・計算」の基礎学力の定着。

②学習の習慣を身につけさせる。(教科書、筆記用具の準備など)

③初めの挨拶、終りの挨拶など基本的な生活習慣がきちんとできるようにすること。

④コミュニケーション能力を身につける。

⑤将来の目標づくりのためのキャリア教育。

◎現在取り組んでいること

①学校で使用している教科書及びドリル等を活用し基礎学力を身につけるようにしている。

②週1回の家庭教師との学習時間を確保することを習慣づけるようにしている。

③コミュニケーション能力を身につけるため社会の出来事などを通して考え方の意見の交換をしている。

④将来の職業の選択、仕事のために今、学力をつけていることの意識づけをしている。

1、国語

(1)「小学校こくご (教育出版)」を活用

①目標：朗読を通して文章を読みとる力をつける。

②目標に到達するため1年、2年、3年の教科書の朗読を実施している。

(2)「漢字のけいこ KUMON」を活用

①目標：各学年の配当漢字の音読み、訓読み、書き順を正確に書くことができるようにする。

②目標に到達するため各学年の配当漢字の読み書きを実施している。

(3)「毎日のドリル 新学習指導要領対応(学研版)」の活用

①目標：新出漢字の正確な読み、書きができるようにする。

②目標に到達するためドリルを活用し繰り返し漢字の書き取りをしている。

2、算数

(1)「さんすう1 (啓林館)」

①目標：たし算、引き算を正確にできるようにする。

②目標に到達するため教科書に沿って学習し、練習問題を繰り返し実施している。

(2)「毎日のドリル (算数)」の活用

①目標に到達するため計算ドリルを繰り返し活用している。

3、読み聞かせの実施

①目標：読み聞かせする事によって聞くことの態度を身につける。

②目標に到達するため推薦図書の書籍を県立図書館等から借りて読み聞かせを実施している。

③情操教育の一環としての読み聞かせを実施している。

◆3月までの到達<成果>

①国語、算数の基本である「読み・書き・計算」に自信がもてるように指導したい。

②家庭学習の習慣を身につけさせたい。(家庭学習の習慣化)

③以前に比べ会話が上手になり、コミュニケーション能力が身についた。

④将来の目標づくりに関心を持ちキャリア教育の育成ができ、目的意識を持つことができたようになった。

◆次年度の目標<課題>

①高学年(4・5・6学年)の「読み・書き・計算」の基礎学力の定着。

②コミュニケーション能力を身につける。

③将来の目標づくりのためのキャリア教育の育成。

非行少年へ支援急務

更生保護2委員が直言

提言

1. 初発非行への厳密な対応
2. 貧困・放任・ネグレクト家庭への支援
3. 授業についていけない児童・不登校児童の解消、夜の居場所の設置
4. 地域不良集団の消滅または再教育、中卒児童等への職業前訓練
5. 誰でも、いつでも入学できる高校の設置
6. 親子関係の改善と暴力防止
7. ひとり親世帯への支援の充実
8. 児童福祉施策の充実

学習状況の設問では、97・8%が「不良」(授業についていけない状態)だった。放任・ネグレクトが背景にあるとみられ、不登校につながっていた。

本来は日中の子どもが居場所であるはずの学校だが、授業についていけないことで、

居場所づくり 学習支援

退職教員活用し学ぶ場を

2日発表された、沖縄少年院仮退院者46人を対象にした非行実態調査は、家庭内外の暴力の中で生きる子どもの姿や初発非行の低年齢化、児童虐待のネグレクト(育児放棄)が、それに近い放任状態に置かれた厳しい現状が明らかになった。調査を実施した九州更生保護委員会第3部の2委員は改善策として8項目を提言している。詳報する。



沖縄の少年非行の調査結果を説明する法務省九州地方更生保護委員会第3部の森徹部長委員(右)と津嘉山信行委員(左)＝那覇市樋川・那覇第一地方合同庁舎

子どもたちを排除する場所となつていく。学習不良の子を早期に救済することが、後の不登校や非行へ発展させない鍵となる。

家庭学習は、本来は家庭の役割と認めつつも、ひとり親世帯や貧困世帯では環境が整っていない現状も指摘。家庭任せにするのではなく、支援の役割を行政や地域に求めている。

【提言】「学校関係者が、授業についていけない児童を地域の主任児童委員等へつなぎ、児童館等で退職教員等を活用した学習支援のシステムを考えてほしい。昼間は小学生、夜間は中学生を対象にすれば、夜に行き場の場のない少年の居場所になり、深夜徘徊を解消する有効な手段となる」

無試験で入れる高校設置

教育歴の拡大

少年院を退院した後の職業の設問で、就職先が決まっているのは3割に満たなかった。

県内の失業率の高さに加え、教育歴を理由に選択できる職業の幅が限定される事情

がある。

加えて進学も困難な現状がある。少年院で勉学の楽しさに目覚めても、経済的事情から進学が難しかったり、合格率が低くなっている。

退院後の再犯を防ぐための居場所づくりとして、進学希望者を無条件で受け入れる高校の設置を求めている。

【提言】

「少年院で学ぶ楽しさを知り、高校へ進学したいと願う少年が大勢いる。しかし、入試を突破できる者は少ない。勉強したいと希望する者が、誰でも無試験で入学できる高校が必要だ。他府県ですでに設置されている」

親への非暴力指導必要

親子関係修復

家族から暴力を受けたと答えた少年は67・4%に上った。暴力は仲間や先輩などからも受けていることが分かった。暴力環境からの脱出には、親子関係の修復が大きな柱となる。

報告書は「幼少期は放任・ネグレクトで養育され、深夜徘徊を重ねるうちに、しつこく称して親から暴力を振るわれる典型的なパターン」と典型的な親子関係を指摘。

少年院で導入している怒りをコントロールするプログラム「アンガーマネジメント」などを、親にも受講してもらう仕組みの必要性を指摘した。

【提言】

「親に対する指導として暴力を使わないしつけの指導を徹底していく必要がある。親子関係の修復が再犯、再入院を防ぐ一番の近道」

平成25年度：就労支援研修会より参考資料

1. 福祉（生活保護）における就労支援の位置づけとその意義（資料抜粋）

(1) 生活保護法の目的

「健康で文化的な最低限度の生活の保障」と「自立の助長」（法第1条）

(2) 生活保護の目指す「3つの自立」

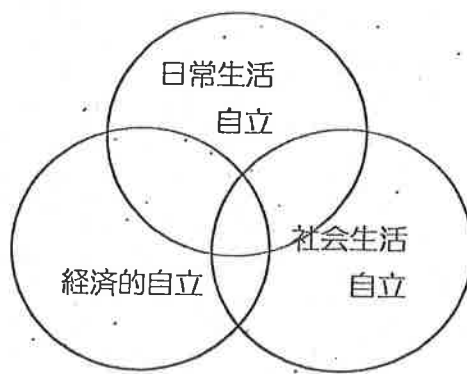
経済的自立： 経済的な自立

日常生活自立：身体や精神の健康を回復・維持し、自分で自分の健康・生活管理を行うなど

日常生活における自立

社会生活自立：社会的なつながりを回復・維持する社会生活における自立

<図：生活保護における3つの自立の考え方>



図：新保作成

(3) 3つの自立の関係

※資料1『居場所づくり研究会報告書』

「3つの自立は並列であり、お互いに関連しあっている。」

『生活保護受給者の社会的な居場所づくりと新しい公共に関する研究会報告書』2010年より

→「就労」は、まさに、3つの自立につながる大切な営みです。

(4) 就労支援とは？

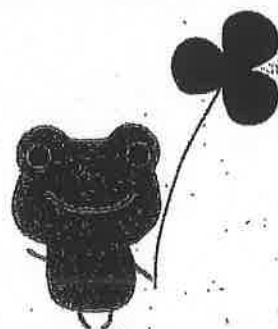
被保護者が、「働くこと」を通して3つの自立が果たせるよう支援していくこと。

→「就労支援」は「就職支援」とは異なります。（就職だけが目標ではありません。）

(5) 就労支援の基本姿勢とその意義

働くことを通して生活の安定をはかるとともに、人・社会とのつながりや、あらたな可能性を生み出す取り組みとして行うこと。→「就労支援」は「人生支援」といえます。

就労支援は、「自立」「就労」という、
かけがえのない大切なことを、
 よりよいかたちで実現することに
 資する、大変意義ある実践です。



生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）について

生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し、自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給その他の支援を行うための所要の措置を講ずる。

法律の概要

1. 自立相談支援事業の実施及び住居確保給付金の支給（必須事業）

- 福祉事務所設置自治体は、「自立相談支援事業」（就労その他の自立に関する相談支援、事業利用のためのプラン作成等）を実施する。
 - ※ 自治体直営のほか、社会福祉協議会や社会福祉法人、NPO等への委託も可能（他の事業も同様）。
- 福祉事務所設置自治体は、離職により住宅を失った生活困窮者等に対し家賃相当の「住居確保給付金」（有期）を支給する。

2. 就労準備支援事業、一時生活支援事業及び家計相談支援事業等の実施（任意事業）

- 福祉事務所設置自治体は、以下の事業を行うことができる。
 - ・ 就労に必要な訓練を日常生活自立、社会生活自立段階から有期で実施する「就労準備支援事業」
 - ・ 住居のない生活困窮者に対して一定期間宿泊場所や衣食の提供等を行う「一時生活支援事業」
 - ・ 家計に関する相談、家計管理に関する指導、貸付のあっせん等を行う「家計相談支援事業」
 - ・ 生活困窮家庭の子どもへの「学習支援事業」その他生活困窮者の自立の促進に必要な事業

3. 都道府県知事等による就労訓練事業（いわゆる「中間的就労」）の認定

- 都道府県知事、政令市長、中核市長、事業者が、生活困窮者に対し、就労の機会の提供を行うとともに、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行う事業を実施する場合、その申請に基づき一定の基準に該当する事業であることを認定する。

4. 費用

- 自立相談支援事業、住居確保給付金：国庫負担3／4
- 就労準備支援事業、一時生活支援事業：国庫補助2／3
- 家計相談支援事業、学習支援事業その他の生活困窮者の自立の促進に必要な事業：国庫補助1／2

施行期日

平成27年4月1日

※ 第185回国会で可決・成立。平成25年12月13日公布。



卒業研究

学部名： 健康福祉・スポーツ振興学部

氏 名： 久貝 登志夫

1. テーマ

スポーツクラブを通じた地域コミュニティづくり
～浦添市の人づくり・健康づくり・安心づくりに貢献～

2. テーマ設定理由

私は仲西地域に住み、長年、様々な地域活動に参加してきましたが、参加する顔ぶれが大体同じで参加者も少なく感じます。そのため、地域型総合スポーツクラブを通して、もっと多くの方々が気軽に参加できれば、様々な地域活動もますます活発になると考え、今回のテーマとした。

3. 項立て（概要でも良い）

1、テーマ設定理由

2、本 論

1) 総合型地域スポーツクラブとは

2) ふれあい仲西スポーツクラブとは

3) スポーツの効用について

(1) スポーツは参加者の健康づくりに役立つ

(2) スポーツは世代間・地域の交流を推進する

(3) スポーツは子ども達に社会性を身につけさせる教育的効果がある

4) 浦添市の概況と課題

(1) 自治会加入率

(2) 地域コミュニティづくり

5) ふれあい仲西スポーツクラブの現状と課題

3、まとめ

参考文献

卒業研究

学部名： 健康福祉・スポーツ振興学部

氏 名： 久貝 登志夫

スポーツクラブを通した地域コミュニティーづくり ～浦添市の人づくり・健康づくり・安心づくりに貢献～

1、テーマ設定理由

私は仲西地域に住み、長年、様々な地域活動に参加してきましたが、参加する顔ぶれが大体同じで参加者も少なく感じます。その為地域型総合スポーツクラブを通して、もっと多くの方々が気軽に参加できれば様々な地域活動もますます活発になると考え、今回のテーマとした。

2、本 論

1) 総合型地域スポーツクラブとは

従来のスポーツクラブは、子どもは子どもだけで、高齢者は高齢者だけで、障がいのある人は障がいのある人だけで組織をつくって活動することが多かった。その結果、その組織内には開かれているが対外的に閉鎖的であることが多く、その活動が地域コミュニティーの醸成へと十分につながってこなかった。それらの隔たりを克服して、地域住民のみんなが楽しむことができるスポーツ環境を整備し、その結果として障害の有無・性・年代・種目・目的（楽しみ方）を超えた交流が地域の中に生まれ、スポーツを核とした豊かな地域コミュニティーが創造される。このように、総合型クラブは、スポーツを楽しむことで地域の人間関係のつながりを育み、結果として地域づくりへと向かうことを基本理念とする組織である。

2) ふれあい仲西スポーツクラブとは

『明るく・楽しく・ふれあう・地域コミュニティーづくり』を目指しスポーツクラブを通して、地域の活性化を図ることを目的とし、また地域社会及び学校と協力して、会員及び地域住民が健康で健全な体力作りを図るとともに、多世代間の交流を図り、青少年の健全育成に寄与することを目的とし、スポーツ振興くじ

(toto) の助成金などを活用し、総合型地域スポーツクラブとして、平成24年3月18日に設立され3年目を迎える。

活動種目は、操体法、インディアカ、子供卓球教室、バドミントン、ラジオ体操、親子エイサー、ノルディックウォーキング、ボウリング、ソフトボール、グラウンドゴルフ、テニポンと多種目にわたり、会員数は、10歳未満から80歳以上まで180名を数える。

活動地域は仲西・宮城地域で仲西公民館、集会場、中庭、及び校区内の学校施設並びに近隣スポーツ施設等を活動拠点としている。

《活動日時》

- 操体法 : 毎週火曜日 午前10:00～12:00
- インディアカ: 毎週火曜日 20:00～22:00 と第一・第三水曜日 20:00～22:00
- 子供卓球教室: 第一・第三金曜日 20:00～21:00
- バドミントン: 第一・第三火曜日 20:00～22:00
- テニポン : 第二・第四火曜日 20:00～22:00
- 親子エイサー: 夏祭りに向け、
- ラジオ体操: 夏休み期間
- ボウリング大会: 年2回
- ソフトボール大会: 年2回
- ウォーキング・ノルディックウォーキング: 各年1回
- グラウンドゴルフ: 年2回

《ふれあい仲西スポーツクラブ 活動の様子》



(子供卓球教室)



(インディアカ教室)



(親子エイサー)



(テニポン教室)



(ラジオ体操)



(操体法教室)

また、2014年11月17日～2015年2月16日の期間限定で、名桜大学の
前川美紀子先生を講師に迎え、毎週月曜日午後7時から午後9時まで「スマートダイ
エット教室」を開催し、参加者約30名で5.0kg余の減量を達成し、大好評でした。

私は当初よりふれあい仲西スポーツクラブに携わり、アシスタントマネジャーの資
格も取得し、現在は、主にインディアカクラブと子供卓球教室のリーダーとして、日々
汗を流しています。

《スマートダイエット教室の様子》





3) スポーツの効用について

(1) スポーツは参加者の健康づくりに役立つ。

身体を動かすことによる爽快感、達成感、満足感、連帯感、ストレス発散等、心の健康、精神的充足にも役立つ。健康的な生活を営むために、誰でも・いつでも・どこでも・気軽にスポーツに接し、楽しむことは重要である。

(2) スポーツは世代間、地域の交流を推進する。

スポーツを通して、子供から高齢者まで地域住民が世代を超えて交流を深めていくことは、地域の連帯意識の高揚、地域社会の活性化を促す。

また、地域に誇りと愛着を感じるにより、人間関係の希薄化を解消し、地域社会の再生につながる。

例えば、公園に小さなバスケットボールのゴールを作るとか、パークゴルフなど、本格的なものでもなくとも、そういったものを作り、パークゴルフを高齢者と子どもが一緒にやってみるとか公園をもっとうまく活用していくと、世代間の交流がもっとできると思います。

海外ではチェスもスポーツの部類に入っています。内地の公園などでは将棋や囲碁を指しているのをよく見ますが、これも広く捉えればスポーツだと思います。そういったツールを使えば、地域の中で世代間の交流がもっと出てくると思います。高齢者の方も子どもと触れ合うことで元気になっていくし、子どもは親だけではなく、いろいろな大人と接することで社会の仕組みを覚えていくこともできます。

(3) スポーツは、子ども達に社会性を身に付けさせる教育的効果がある。

スポーツはルールに基づいて行うもので、青少年に社会性、ルールを尊重する精神、自己責任、フェアプレイ精神の育成を授ける。他者との協同、仲間との交流は他人への思いやりを育む。

またコミュニケーション機会を増大させコミュニケーション能力を育成する等、スポーツが果たす役割はますます増して行く。

4) 浦添市の概況と課題

(1) 自治会加入率

平成26年3月31日現在の統計によれば、浦添市40自治会の平均加入率は24.94%で、仲西自治会の加入率は18.14%である。

最大かつ窮極の課題は減少する会員世帯数でこのまま放置すれば組織の存亡に影響するので看過できない。(※表1参照)

平成25年度 自治会加入率 平成26年3月31日現在

		前年度 加入世帯 数	加入世帯数	前年度 加入率	加入率	増 減
1	仲 間	284	287	24.44%	24.96%	0.52%
2	安 波 基	123	123	19.46%	18.89%	-0.57%
3	伊 担	265	265	17.03%	16.92%	-0.11%
4	牧 港	558	556	28.70%	28.79%	0.09%
5	港 川	164	204	7.66%	9.38%	1.71%
6	城 間	409	409	19.69%	19.77%	0.08%
7	屋 高 祖	765	765	36.55%	36.74%	0.19%
8	宮 城	581	570	14.19%	13.56%	-0.63%
9	仲 西	265	283	18.27%	18.14%	-0.13%
10	小 湾	244	244	13.87%	14.08%	0.21%
11	勢 理 客	598	598	30.42%	30.29%	-0.12%
12	内 間	928	926	23.47%	22.79%	-0.68%
13	沢 証	288	288	19.23%	18.76%	-0.46%
14	経 塚	341	356	22.67%	22.78%	0.10%
15	前 田	283	287	14.37%	14.12%	-0.25%
16	西原一区	226	226	25.68%	25.45%	-0.23%
17	西原二区	311	312	26.18%	25.79%	-0.39%
18	当 山	250	255	38.51%	38.69%	0.19%
19	大 平	367	367	20.66%	20.32%	-0.34%
20	広 栄	106	106	27.82%	27.75%	-0.07%
21	茶 山	212	212	56.08%	55.35%	-0.73%
22	緑ヶ丘	270	270	32.49%	32.57%	0.08%
23	浦 城	137	137	9.01%	8.53%	-0.49%
24	浦添ニュータウン	492	496	54.42%	54.63%	0.20%
25	牧港ハイツ	92	92	67.15%	67.15%	0.00%
26	浦添グリーンハイツ	336	338	59.57%	59.09%	-0.48%
27	浅野浦	363	363	18.19%	18.09%	-0.10%
28	前田公務員宿舎	271	231	100.00%	100.00%	0.00%
29	港川崎原	58	58	70.73%	69.05%	-1.68%
30	上 野	165	165	42.31%	41.04%	-1.26%
31	マチナトタウン	332	332	58.66%	58.14%	-0.51%
32	神 森	164	164	35.73%	44.20%	8.48%
33	浦 西	421	423	64.97%	63.99%	-0.98%
34	安川	108	108	50.70%	44.08%	-6.62%
35	当山ハイツ	102	114	17.17%	19.86%	2.69%
36	浦添ハイツ	82	83	63.57%	65.35%	1.79%
37	県営経塚団地	130	129	98.48%	100.00%	1.52%
38	浦添市街地住宅	176	185	97.24%	100.00%	2.76%
39	県営沢証高層住宅	104	105	97.20%	100.00%	2.80%
40	陽迎橋	119	129	12.24%	12.94%	0.70%
	合 計	11,490	11,561	25.19%	24.94%	-0.26%

(※表1)

(2) 地域コミュニティーづくり

安全・安心なまちづくりを目指して月一回の地域防犯パトロール隊による夜間巡視、環境整備として小湾川沿いに黒木並木まちづくりプランの実施、年一回の防災訓練、年間恒例行事（獅子舞、盆踊り、敬老会、新年会、陸上競技大会）を通して地域内の大人と子供の交流・ふれあいを綿密にすることで地域内コミュニティーづくりを活発にしている。

更に、ふれあい仲西スポーツクラブの活動を通して地域コミュニティーづくりに貢献しているところである。

5) ふれあい仲西スポーツクラブの現状と課題

子供卓球教室は地域における子供の居場所作りの一環としてかかわり当初5~6人の参加でしかなかったが、現在では、徐々にではあるが常時10人以上の参加で賑わいを見せている。

しかし、中にはマナーが悪くふざけ合って遊んでいる子供もいる、この子たちに社会のルールやマナーを教えるのも私の役目であると考えているが、なかなか難しくどういうふうに教えていけば良いのか思案しているところである。

インディアカクラブに関しては、現在老若男女合わせて22人の会員で、毎週第一火曜日と第一・第三水曜日に宮城小学校体育館を使用して、運動不足の解消健康増進(維持)を兼ね、明るく、楽しくをモットーに練習に励んでいる。

当クラブは、浦添市大会や沖縄県大会に、毎回2~3チームを編成し参加している。この界限では名前が知れ渡っており、他の地域からも練習に訪れている。

ふれあい仲西スポーツクラブの会員数を増やすため、新たにバドミントンクラブ、テニポンクラブを立ち上げた。

広報活動として、ポスターも作成し地域内に設置されている掲示板や、公民館などに掲示して、広く地域住民に当クラブの活動紹介と各教室への参加を募集しているが、なかなか思惑通りにならないのが現状である。

そもそも仲西自治会への加入率が18%台と低く、地域住民が気軽にスポーツクラブに目を向け、スポーツ(健康づくり)を通したコミュニティーづくりに関わっていくことが大切である。

3、まとめ

浦添市スポーツ推進計画の中にも『いつでも、どこでも、だれでも楽しめる生涯スポーツの推進』とあります。新しいスポーツ(キンボール、ホームカーリング)等の追加導入を検討し、広く広報活動を強化しながら新規会員を増やせば、おのずと自治会加入率もアップすると考えられます。

1人でも多くの地域の皆様が、この地域に住んで良かったと思うように、これからもふれあい仲西スポーツクラブ活動を通して、健康で生き生きとした地域コミュニティーづくりに貢献していきます。

また、数年前から深刻化してきている沖縄県の健康問題。肥満者の割合は、男女とも全年齢で全国平均を上回り、肥満は、糖尿病や心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病の発症するリスクが高まる。生活習慣病は全医療費の約3割、死亡者数の約6割を占めている。

更に、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームによる要支援・要介護費も年々増加し、浦添市の財政を圧迫している。そのためにも、ふれあい仲西スポーツクラブを通して運動機能を高め、あるいは維持して、ロコモ予防や肥満を解消すれば生活習慣病のリスクも減り医療費も抑えられる。

また特定多数の人と関わることでストレス解消、認知症予防にもなる。
望は、人生、PPK（ピンピンコロリ）（年を取ってもピンピンと元気に生きて、
最後はコロリと死ぬ）と終わりたいものとする。

参考文献・参考URL

- ・公益社団法人全国スポーツ推進委員連合 『スポーツ推進委員ハンドブック』
- ・公益財団法人日本体育協会 『公認スポーツ指導者養成テキスト』
- ・仙台大学講義録③「スポーツの意義と効用。（生涯スポーツをめざす社会に向けて）」

<<http://www.suzuya-k.co.jp/sports.html>> 2015年2月20日アクセス

- ・札幌市厚別区役所ホームページ「スポーツを通じた世代間交流の促進について」
<<http://www.city.sapporo.jp/atsubetsu/joho/towntalk/flathome2013/sedaikan.html>>

2015年2月20日アクセス

- ・てだこ市民大学 健康福祉・スポーツ振興学部「講座の資料」
- ・ふれあい仲西スポーツクラブ「運営委員会議録」
- ・仲西自治会長 島田勝男氏「自治会についての聞き取り」



卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏名：当山 弘枝

1. テーマ

「浦添市版 認知症の方や家族が安心して暮らせるまちづくり」
～ 民生委員・児童委員活動を通じた地域福祉活動 ～

2. テーマ設定理由

平成26年9月17日付の『家族に物忘れ等の異変を感じながらも、病院を受診するまでに平均で9カ月半かかっている』という沖縄タイムスの記事を読んで、私は、「認知症にかかると、その人の人生は終わってしまうのか？ そんなにこの病気は怖いものなのか？ どうしようもないものなのか？」という疑問を持った。

65歳以上の人口は現在3000万人を超え、国民の4人に1人が高齢者である。2012年の厚生労働省の調査では、認知症の患者はすでに462万人に達しており、団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、患者数が700万人を超えるとみられている。

私の両親も80歳を迎え、地域の女性部や民生委員を通して、地域の高齢者の方々と接する機会も増え、身近な問題であると思った。決して他人事ではなく、誰にでも起こりうる病気として認知症を正しく理解し、認知症の方が安心して暮らせるためのまちづくりがいま必要であると思いテーマとした。

3. 項立て（概要でも良い）

1、テーマ設定の理由

2、研究内容

- 1) 認知症とは
- 2) 認知症の原因
- 3) 認知症と生活課題
- 4) 浦添市の社会福祉活動
 - ①自治会活動と加入率
 - ②民生委員・児童委員活動
 - ③要介護認定の状況
 - ④地域包括ケアシステム
- 5) 先進地の取組み
 - ①福岡県大牟田市の実践
 - ②熊本県の実践
- 6) 浦添市の地域福祉
 - ①中学校区地域保健福祉センター
 - ②地域包括支援センター

7) 浦添市の課題と展望

- ①認知症家族の現状課題
- ②認知症サポーターの養成と活動
- ③地域住民と福祉教育の必要性
- ④SOSネットワークの構築

3、まとめ

4、おわりに

参考文献・添付資料

卒業研究

「浦添市版 認知症の方や家族が安心して暮らせるまちづくり」 ～民生委員・児童委員活動を通じた地域福祉活動～

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部
氏名：当山 弘枝

1、テーマ設定の理由

平成26年9月17日付の『家族に物忘れ等の異変を感じながらも、病院を受診するまでに平均で9カ月半かかっている』という沖縄タイムスの記事を読んで、私は、「認知症にかかると、その人の人生は終わってしまうのか？ そんなにこの病気は怖いものなのか？ どうしようもないものなのか？」という疑問を持った。

65歳以上の人口は現在3000万人を超え、国民の4人に1人が高齢者である。2012年の厚生労働省の調査では、認知症の患者はすでに462万人に達しており、団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、患者数が700万人を超えるとみられている。

私の両親も80歳を迎え、地域の女性部や民生委員を通して、地域の高齢者の方々と接する機会も増え、身近な問題であると思った。決して他人事ではなく、誰にでも起こりうる病気として認知症を正しく理解し、認知症の方が安心して暮らせるためのまちづくりがいま必要であると思いテーマとした。



2、研究内容

1) 認知症とは

誰でも年をとると記憶が悪くなったり、人や物の名前を思い出せなくなったりする。これは正常に脳が老化した結果で、誰にでも起こることである。

ところが、家族がわからなくなったり、食事をしたこと自体を忘れてしまったり、自分がどこにいるのかわからなくなってしまうなど、日常の生活に支障が出るような病的な状態を認知症という。

すなわち、脳の神経細胞が死んだり、働きが悪くなったりして「記憶力や判断力が年相応以上に低下し、日常生活に支障が出る状態」と定義されている。

したがって、認知症というのは特定の病名ではなく、原因となる疾患はさまざまである。

2) 認知症の原因

アルツハイマー型が最も多く、認知症の半数を占めている。アルツハイマー型認知症は、脳に老人斑と呼ばれるアミロイドβタンパク質が沈着することが原因と考えられている。

一方、レビー小体型認知症は脳細胞の中にレビー小体と呼ばれる円形の構造体が固まることが原因とみられ、はっきりとした幻視、パーキンソン症状と合併して1日のうちで症状が変動するのが特徴である。脳血管性認知症は、脳卒中や脳梗塞が原因で起こり、比較的急激に発症する。まだら状の症状が現われ、段階状に進行していく。

3) 認知症と生活課題

脳の細胞が壊れることによって直接起こる症状を「中核症状」と呼び、症状には記憶障害、見当識障害、理解・判断力の低下、実行機能の低下などがある。

これに対し、本人の性格、環境、人間関係などの要因がからみ合って、精神症状や日常生活における行動上の問題が起きてくることがあり、行動・心理症状と呼ばれる。このほか、認知症にはその原因となる病気によって多少の違いはあるものの、さまざまな身体的な症状もでてくる。

とくに血管性認知症の一部では、早い時期から麻痺などの身体症状を合併することもある。アルツハイマー型認知症でも、進行すると歩行が拙くなり、終末期まで進行すれば寝たきりになってしまう人も少なくない。

4) 浦添市の社会福祉活動

(1) 自治会活動と加入率

私の住んでいる大平は、昭和19年に安波茶から分離して誕生し、70年経過した地域である。主な自治会行事としては、年1回の“大平まつり”“懇親バーベキュー会”“敬老会・生年祝い”“グランドゴルフ大会”等があり、およそ80名余の方々が参加されて、互いの親睦を深めている。その他、月1回行われている“ウフ

ンダふれあいサロン”（赤い羽根募金の戻し金で運営）には、常時30名ぐらいの方が参加されコミュニケーションを交わすことで、認知症予防につながる活動をしている。自治会に加入し活動されている方々の大半が60代以上で、なかでも30名余りを有する老人会（大平明友会）は、とりわけ活発である。

子供会の活動としては、“お化け屋敷”や3世代交流を兼ねた“クリスマス会”等がある。このような自治会員の楽しい活動の様子を月1回「大平だより」で紹介している。

ところで、近年、自治会加入率の低下が嘆かれているが、大平自治会も例外ではない。平成26年3月31日現在の統計によると、大平自治会の加入世帯数は、367世帯で、加入率は、20.32%（前年比－0.34%）となっている。浦添市全体の平均24.94%と比較すると、大平は約5%も低いことがわかる。自治会員の高齢化と世代交代が課題である。（※表1参照）

平成25年度 自治会加入率 平成26年3月31日現在

		前年度 加入世帯 数	加入世帯数	前年度 加入率	加入率	増 減
1	仲 間	284	287	24.44%	24.96%	0.52%
2	安 波 茶	123	123	19.46%	18.89%	-0.57%
3	伊 祖	265	265	17.03%	16.92%	-0.11%
4	牧 港	558	556	28.70%	28.79%	0.09%
5	港 川	164	204	7.66%	9.38%	1.71%
6	城 間	409	409	19.69%	19.77%	0.08%
7	屋 宮 祖	765	765	36.55%	36.74%	0.19%
8	宮 城	581	570	14.19%	13.56%	-0.63%
9	仲 西	265	283	18.27%	18.14%	-0.13%
10	小 湾	244	244	13.87%	14.08%	0.21%
11	勢 理 寄	598	598	30.42%	30.29%	-0.12%
12	内 間	928	926	23.47%	22.79%	-0.68%
13	沢 越	288	288	19.23%	18.76%	-0.46%
14	経 塚	341	356	22.67%	22.78%	0.10%
15	前 田	283	287	14.37%	14.12%	-0.25%
16	西原一区	226	226	25.68%	25.45%	-0.23%
17	西原二区	311	312	26.18%	25.79%	-0.39%
18	当 山	250	255	38.51%	38.69%	0.19%
19	大 平	367	367	20.66%	20.32%	-0.34%
20	広 栄	106	106	27.82%	27.75%	-0.07%
21	茶 山	212	212	58.08%	55.35%	-0.73%
22	経ヶ丘	270	270	32.49%	32.57%	0.08%
23	浦 城	137	137	9.01%	8.53%	-0.49%
24	浦添ニュータウン	492	496	54.42%	54.63%	0.20%
25	牧港ハイツ	92	92	67.15%	67.15%	0.00%
26	浦添グリーンハイツ	336	338	59.57%	59.09%	-0.48%
27	達野浦	363	363	18.19%	18.09%	-0.10%
28	前田公務員宿舎	271	231	100.00%	100.00%	0.00%
29	港川崎原	58	58	70.73%	69.05%	-1.68%
30	上 野	165	165	42.31%	41.04%	-1.26%
31	マチナトタウン	332	332	58.66%	58.14%	-0.51%
32	神 森	164	164	35.73%	44.20%	8.48%
33	浦 西	421	423	64.97%	63.99%	-0.98%
34	安川	108	108	50.70%	44.08%	-6.62%
35	当山ハイツ	102	114	17.17%	19.86%	2.69%
36	浦添ハイツ	82	83	63.57%	65.35%	1.78%
37	県営経塚団地	130	129	98.48%	100.00%	1.52%
38	浦添市街地住宅	176	185	97.24%	100.00%	2.76%
39	県営沢越高層住宅	104	105	97.20%	100.00%	2.80%
40	陽連橋	119	129	12.24%	12.94%	0.70%
	合 計	11,490	11,561	25.19%	24.94%	-0.26%

（※表1）

（2）民生委員・児童委員活動

浦添市内には、5つの民生・児童委員連絡協議会（略して民児協）があり、私は一年前より浦添中学校区の第一民児協に属している。現在、浦添市内で登録されている民生委員の数は109名とのことで、定員123名からすると14名が不足している状態である。地域にあって、心配ごと、悩みごとを抱えておられる方や家族をいち早く発見し、適切な機関へつないだり、サポートしていく働き

を担っている。月1回持たれているCSWを交えての地域支援会議では、気になる方を挙げて、複数体制で見守っていく計画を立てたり、75歳以上の独居のお年寄りを必要に応じて、定期的に訪問し、見守る活動を続けている。

昨年、私が初めて訪問しお話を伺ったことがきっかけで、ある81歳の男性は老人会にも加入され、自治会活動にも積極的に参加されている。その姿を拝見すると、喜ばしいかぎりである。

別のケースで、86歳の独居の男性は5人の子ども達がいるものの、50代の頃妻と離婚し(子ども達は母親が引き取った)以後、ずっと一人暮らしを続けている。月に2～3回ほど、迎えに来てくれる娘の車で買い物に行ったりするが、通院する以外は殆ど自宅での生活である。家の周りがある畑(それほど大きくはない)で、少し野菜を育てたり、自炊される等、自分の身の回りのことは、自分でされている。1～2カ月に1回の割合で、私が訪問する際には、いつも笑顔で迎えてくれるので、逆にこちらの方が励まされ、元気をもらっている。

このように家族がいても、様々な事情で同居ができない一人暮らしの高齢者の方に寄り添い、微力ながらも関わっていきたいと思い、民生委員の活動を続けている。

(3) 要介護認定の状況

浦添市の要介護認定者2,784名のうち認知症高齢者は2,031名で、要介護者の7割を超える。(表2参照)介護を受けていない認知症患者を含めるとさらに多くの患者がいると予想されるが、具体的な人数は把握されていない。

平成25年度、浦添市での徘徊は3件あり(ただし2件は同一人物)、そのうち2件は市内で、残り1件は那覇市内で発見された。これらとは別に独居の認知症高齢者が行方不明となり、3日後に亡くなられた状態で発見されたという大変残念な事件が浦添市内であった。

1. 市町村別 要介護(要支援)認定を受けている高齢者(65歳以上)の「認知症高齢者の日常生活自立度」調査結果

			65歳以上人口	要介護(要支援)認定者数A	Aの「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」における判定ランク別人数B(人)							
					自立	ランクI	ランクIIa	ランクIIb	ランクIIIa	ランクIIIb	ランクIV	ランクM
平成26年3月31日現在	浦添市	人数(人)	17,666	2,784	297	456	288	756	626	151	202	8
		割合(%)	15.5%	—	10.7%	16.4%	10.3%	27.2%	22.5%	5.4%	7.3%	0.3%
		対前年比	856(5.1%)	142(5.4%)	8人(1.1%)	—	134人(7.1%)	【合計(IIa～M):2,031(72.9%)】				
	沖縄県	人数(人)	—	52,652	6,637	10,492	6,628	11,956	10,600	1,906	4,043	390
		割合(%)	—	—	12.6%	19.9%	12.6%	22.7%	20.1%	3.6%	7.7%	0.7%
		対前年比	—	2,716(5.4%)	727人(4.4%)	—	△11人(△0.03%)	【合計(IIa～M):33,523(67.5%)】				
平成25年3月31日現在	浦添市	人数(人)	16,810	2,642	308	437	187	745	577	162	218	8
		割合(%)	14.8%	—	11.7%	16.5%	7.1%	28.2%	21.8%	6.1%	8.3%	0.3%
		対前年比	902(5.7%)	192(7.8%)	△4人(△0.5%)	—	196人(11.5%)	【合計(IIa～M):1,897(71.8%)】				
	沖縄県	人数(人)	—	49,936	6,307	10,095	6,308	10,973	9,805	1,991	3,967	490
		割合(%)	—	—	12.6%	20.2%	12.6%	22.0%	19.6%	4.0%	7.9%	1.0%
		対前年比	—	2,469(5.2%)	748人(4.8%)	—	1,721人(5.4%)	【合計(IIa～M):33,534(67.1%)】				

(※表2)

(4) 地域包括ケアシステム

国は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっ

でも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築実現を目指している。

5) 先進地の取組み

(1) 福岡県大牟田市の実践

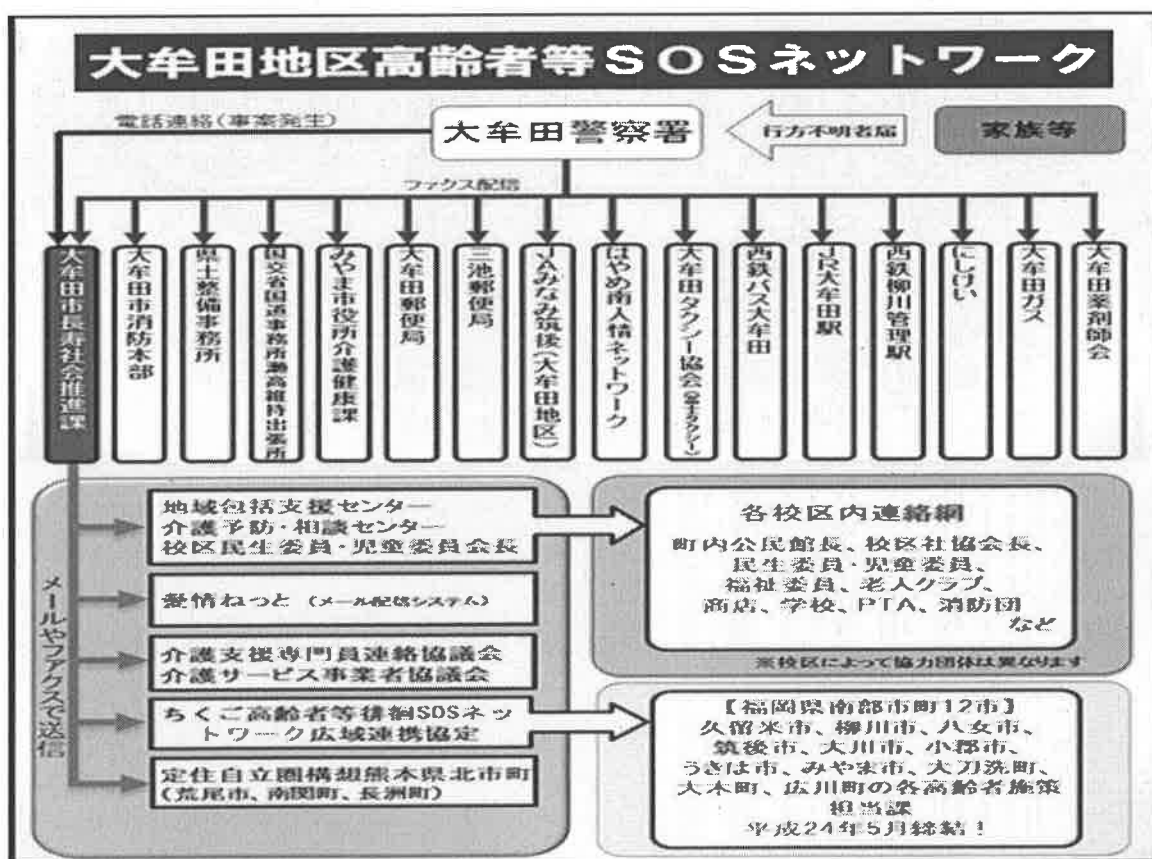
徘徊で行方不明になった認知症のお年寄りを地域ぐるみで保護する取り組みを始めて、10年余りを迎える福岡県大牟田市の活動を紹介する。

①大牟田市認知症ケアコミュニティ推進事業

大牟田市では認知症の人が尊厳を持ってその人らしく生きることができる地域社会の構築をめざし、以下の事業を行っている。

- 認知症コーディネーター養成研修
- 物忘れ予防・相談健診 ～介護予防教室「ほのぼの会」～
- 小中学校の絵本教室 ～認知症サポーター講座～
- 高齢者等SOSネットワーク ～徘徊模擬訓練～

ここでは、認知症の方が行方不明になった時にいち早く探すためのネットワークである「高齢者等SOSネットワーク（事務局：大牟田警察署）」を使った訓練を紹介する。（※表3参照）



(※表3)

大牟田市では、2004 年度より年に 1 回徘徊 S O S ネットワーク模擬訓練を実施している。昨年も 11 回目となる訓練が実施された。

認知症の人が行方不明になったという設定のもと高齢者等 S O S ネットワークを活用して「通報・連絡・捜索・発見・保護」の情報伝達の流れを訓練する。

ネットワーク協力団体以外の市民には、メール配信システム「愛情ねっと」を活用し、徘徊者情報をキャッチしている。訓練中は「もしや?」と思う人を見かけたら勇気を出して「何か、お困りですか?」などと優しく話しかける。 (※表 4 参照)

※行方不明者への声のかけ方、接し方 (大牟田市 HP より)

- ・ ゆっくり近づいて、相手の視野に入ってから、話しかける。
- ・ 近づきすぎず、しかし視線を合わせ、ゆっくりと穏やかな口調で。急に後ろから声をかけたり、大声で怒鳴ったりするような声かけはしない。
- ・ 声かけは「こんにちは」「お暑いですね」など、ごく普通にあいさつからする。
- ・ 「私はすぐその〇〇ですが、どこからいらっしゃいましたか?」とか「どこへ行かれますか?」と、やさしく声かける。
- ・ 「何かお困りですか?」「大丈夫ですか?」「何かお手伝いしましょうか?」もいい質問
- ・ わかりやすい簡潔な言葉で、一つずつ話しかける。返事がないからといって、矢継ぎ早に質問せずに、答えをゆっくり待つ。
- ・ 厳しい顔、困った顔、奇異な表情をせずに、笑顔で相手のペースに合わせてながら接する。
- ・ 腕組や上から見下すような視線、数人で取り囲む、急に腕を掴む、身体に触れるなどは警戒心を持たれ逃げていかれることがある。
- ・ 少しゆっくり歩きながら、声かける。「少し休んでいかれませんか?」「冷たいお茶でもいかがですか?」などと声かけ、少し座られるように促してみる。
- ・ 声かけても、上手く行かない場合は、いったん離れて、間をおき、または近所のほかの人に連絡し、助けを求める。
- ・ 本人情報を持っていたら、その情報 (例: 旧姓や出身、なじみの場所等) を上手く使って、話しかける。
- ・ この土地の人なら、なじみの場所や土地の言葉を使う。

(※表 4)

(2) 熊本県の実践

「隣の自治体の情報を知りたい」という住民の声で 2006 年にスタートした大牟田市と熊本県荒尾市の連携事業がある。

当初は防災やイベント関連だけだったが、2008 年からは家族からの届け出を受けて、認知症などで行方不明になった人の特徴を配信するようになった。2013 年 10 月からは両市に接する熊本県南関町も加わった。

2013 年夏、このシステムがきっかけで徘徊中の 80 代男性が見つかった。荒尾署によると 8 月 10 日午前 5 時ごろ、荒尾市の自宅を出たまま帰ってこないと家族が届けた。情報がメールで配信された約 3 時間後、大牟田市内を車で走っていた女

行方不明者の情報を住民に流す自治体は多いが、違う自治体に移動してしまうと情報が届かないため、住んでいる場所から離れた他市町村では発見や身元確認が難しくなる。(2014年12月4日沖縄タイムスより)

浦添市のコミュニティーソーシャルワーク事業は、地域に住むすべての人々が「安心して暮らせるまちづくり」をめざし、市内の中学校区ごとに設置されている5か所の地域保健福祉センターを活動拠点としている。そこでは、行政制度やサービスなどでなく住民自らの手でつくる「安心」にむけて、「人」と「人」、「人」と「地域」、「地域」と「地域」をつなぐ取り組みが展開されている。

保健師、主任ケアマネージャー、社会福祉士などが中心となって高齢者の支援を行う。支援センターの主な事業は以下のとおりである。

- 介護予防事業（介護や健康のこと）
- 権利を守ること（成年後見制度や日常生活自立支援事業）
- 総合相談

介護に関する相談や心配ごと、悩み以外に健康や福祉、医療や生活に関することなど、また高齢者だけでなく、その家族や近隣に暮らす人の高齢者に関する相談も受ける。相談を受けた地域包括支援センターは適切な機関などにつなぎ、つないだ後も支援をしていく。

(1) 認知症家族の現状課題

私の周囲で認知症の家族を抱えている方は、デイサービスを利用されるか、何らかの事情で短期間預かってもらうショートステイを利用する以外は、ほとんど自宅で介護されている。止むをえない場合は、鍵をかけ（中から簡単に開けられないように、二重、三重に設置している）短時間、一人残して用事を済ませることもあるという。病院や施設に預けると、意思の疎通が困難なため、身体拘束を受け、自立歩行が衰えるケースも少なくないという。（H26.11.28 沖縄タイムス掲載）



C SWの話によると、現在認知症の家族は、なるべく他人に家族の中に認知症がいることを知られないようにすることが多いとのこと。

私の住んでいる大平でも認知症の方がおられるが、その家族の多くは、その事を隠そうとされる。地域の方々に認知症であることを明らかにし、理解してもらうことで、さりげない協力が得られることがわかってきている。

今、家族の意識改革と多くの市民の認知症に対する正しい理解と知識が求められている。

(2) 認知症サポーターの養成と活動

厚生労働省のキャンペーンの一環として 2005 年に始まった取り組みで、全国で約 580 万人（キャラバンメイト含む）いる。

県内の市町村で事務局があるのは那覇市、浦添市、名護市、沖縄市、宮古島市、恩納村、北中城村、久米島町、与那国町の 9 か所である。認知症を理解し、当事者や家族を支えることを目的として行われている。

浦添市でも養成講座の講師を務める「キャラバン・メイト」の連絡会が発足し、そこでメイト同士の交流やスキルアップを行っている。キャラバン・メイトが市内小中学校に積極的に働きかけ連携をしている。昨年市内で開催された介護メインの総合福祉展「バリアフリーオリンピック」には、認知症サポーターの講座を受講した港川中学校の生徒が作成した啓発リーフレットが登場した。ぬくもりあふれる手書きの文字で認知症の症状を分かりやすく説明したほか、接し方を 4 コママンガで表現している。認知症の人の家族の立場から啓発活動に取り組んでいる方によると「認知症に関心を持ってもらえたこと、間違ったとらえ方、偏見を持つのでなくきちんと理解してくれたことがうれしい。認知症にやさしいまちづくりのためにはサポーターがたくさん必要。増えることを期待している。」とのコメントがあった。(2015 年 1 月 27 日沖縄タイムスより)

2015 (H27) 1. 27 (木)

認知症 県内に支援者の輪

サポーター学校・地域で

認知症を理解し当事者と家族を支える「認知症サポーター」。認知症になっても安心して暮らせる社会に向け、県内でも若者や地域を巻き込んだサポーター養成活動が始まっている。取り組み、家族の思いを取材した。(岡部ルミ)

浦添市では、認知症サポーター養成講座の講師を務める「キャラバン・メイト」の連絡会が発足し、メイト同士の交流やスキルアップの場をつくる。また、キャラバン・メイトが市内小中学校に積極的に働きかけ連携している。

昨年市内で開催された介護メインの総合福祉展「バリアフリーオリンピック」には、認知症サポーターの講座を受講した港川中学校の生徒が作成した啓発リーフレットが目を引いた。ぬくもりあふれる手書きの文字で認知症の症状を分かりやすく説明したほか、接し方を 4 コママンガで表現している。

浦添市のキャラバン・メイトの古謝さん(左)と友寄さん。胸にしているのは、認知症サポーター養成講座の受講者のしるし、オレンジリング＝浦添市内

児童生徒も受講

同県の養育委員キャラバン・メイトの理学療法士、古謝さん(左)は、メイト仲間と市内の小中学校に足を運ぶことで「私たちのような若者が、子どもたちに認知症を含めた福祉に関する機会をつくることで、いじやと偏見を重ならない。それが学校現場での養成講座開催につながり、リーフレット作成に発展した。

認知症サポーター養成講座開催の流れ

- 養成講座講師(認知症キャラバン・メイト)
- ※講師謝礼金は不要(交通費支払いは可)
- 教材は事務局で用意
- ①講師へ打診
- ②開催の日程
- ③開催場所を合わせ
- ④開催申込書提出
- 市町村
- 学校
- 企業
- 市民グループ
- その他団体

事務局(沖縄県・市町村)

(3) 地域住民と福祉教育の必要性

認知症の方やその家族を地域で支えていくために、今後も継続して認知症サポーターを増やす必要がある。それと同時に、地域の方々が認知症の方や家族を支えていく地域づくりを推進しなければならない。

それを実現するためには、地域保健福祉センターが中心となって、地域包括支援センター、行政、さらには、自治会の協力を得ながら地域の協力体制をつくりあげていかなければならない。機関と機関をつなぎ合わせて機能させていくためにも、志を持ったボランティア員の養成も望まれる。ユイマール精神の根づいた沖縄県民、浦添市民ならではの地域づくりが求められる。小学校からの福祉教育も必要である。

(4) SOSネットワークの構築

認知症の方が行方不明になった時にいち早く探すためのネットワークである「高齢者等SOSネットワーク」を浦添市も構築し、年に1回徘徊SOSネットワーク模擬訓練を実施してほしいと考える。

認知症の人が行方不明になったという設定のもと高齢者等SOSネットワークを活用して「通報、連絡、搜索、発見・保護」の情報伝達の流れを訓練してほしい。

3、まとめ

今の浦添市で一人暮らし、認知症、要介護2の方々を地域で支えていくことが果たしてできるだろうか。本文でも述べたが、平成25年に一人暮らしの認知症のお年寄りが行方不明となり最悪の結果を迎えたことを考えると、まだ「認知症の人が安心して暮らせるまち」であるとは言い難いのではないだろうか。

浦添市には地域包括支援センター、地域保健福祉センターそして関係機関、また市民に知らせるためのメール配信システムもすでにそろっているのだから、大牟田市が取り組んでいるSOSネットワークを実現することは可能だ。

さらに、認知症サポーターは年々増えており、SOSネットワークがあれば積極的に活躍してもらえる場ができる。認知症の方々が安心して暮らせる浦添市にしていくために、既存の機関や取り組みがしっかりと連携して支える制度設計が求められていると考える。

団塊の世代が後期高齢者に到達する2025年まで、あと10年はある。それまでに「認知症対策 浦添市」とネットで検索したら、誰が見てもわかりやすい情報が得られるような「浦添市版 認知症の方や家族が安心して暮らせるまちづくり」を構築してほしい。

4、おわりに

2013年、警察に届け出のあった認知症による行方不明者は全国で10,322人、そのうち発見時に亡くなられていた方は388人に上るという。

少子高齢化が急速に進んでいく日本。その中であって私たちは何ができるだろうか。

私の住んでいる大平はバイパスを挟んで両側に広がる地域である。小学校は4か所、中学校は2か所に分かれ、子ども会も2つに分かれている。この様な厳しい条件の中に置かれた大平地域だが、自治会員の方々はいつも明るく何事にも前向きで、人生を楽しみながらお互いに支えあっている。3年前より若輩者の私が女性部長の役目を仰せつかり、また1年前より民生児童委員としての活動もスタートしたばかりだ。

自治会に加入し、常に何らかの形で触れ合う機会のある方は安否確認が取れるが、

問題は自治会に加入していないお一人暮らしの方や何らかの問題を抱えた家族である。

さらに、大平には 83 名の認知症の方が住んでいらっしゃるらしいが、残念ながらそれはなかなか表に出てこない。縁あって同じ地域に住んでいる私たちである。

“隣の人は何する人ぞ？”という淋しい人間関係ではなく、困っている人がいたら声を掛け合える、助け合える、支え合える地域づくりをCSWやさまざまな機関と連携しながら頑張っていきたいと思う。

そのためには、私自身もこの 2 年間の市民大学で学んだ経験を活かして尽力していきたい。

民生委員として、地域の一員として、微力ながら、また市民大学を通じて出会えた仲間たちとのつながりも、今後大切にしながら歩んでいきたいと思う。

学部長はじめ事務局の皆様、2 年間お世話になりました。
ありがとうございました。

参考文献

- ・中谷一泰「ストップ！認知症」西村書店、2014 年
- ・加藤伸司「認知症の人を知る」ワールドプランニング、2014 年
- ・羽生春夫「認知症を予防する生活習慣」メディカルトリビューン、2012 年
- ・斉藤正彦ほか「認知症を学び地域で支えよう」全国キャラバン・メイト連絡協議会、2014 年



卒業研究

学部名： 文化教養振興 学部

氏 名： 亀 川 郁 子

1. テーマ

地域にある文化史跡を知り、伝えよう

2. テーマ設定理由

琉球王都の所在地が、首里以前は浦添にあった名残が市内に見うけられる。それらの文化遺産等を目にするとき、古代のロマンを感じると共に誇りに思える。その中で、浦添城から首里城へ身を移し国王とならざるを得なかった尚寧が、首里と浦添を繋ぐ通称「尚寧王の道」を整備したように、私達の住む当山地区に「当山の石畳」がある。

石畳が、いつ頃、どのような経緯で整備され、祖先が使用し、現状に至っているかを知り、継承の手立てにあればと考え「当山の石畳」について調べることにした。

地域を中学校区域という視点で見ると、小学校近くに「当山の石畳」、中学校正門前に「おもろの碑」があることに着目し、建立の経緯や、句の意味を知り、伝承できればと思い、「おもろの碑」にも触れてみたいと考えテーマを設定した。

3. 項立て（概要でも良い）

- 1、「宿道」について
- 2、「当山の石畳道」
- 3、「おもろの碑」
- 4、考察・今後の課題

※参考文献

I. テーマ

地域にある文化史跡を知り、伝えよう

II. テーマ設定理由

琉球王都の所在地が、首里以前は浦添にあり、琉球の中心であったとする名残が市内の各所に見受けられる。

それらの文化遺産を目の当たりにするとき、古代のロマンを感じると共に、今なお保存・継承されている事に誇りに思えるものです。

その中で、浦添城から首里城へ身を移し、国王となった尚寧が、首里と浦添を繋ぐ通称「尚寧王の道」を、整備したように、私たちの住む当山地区にも「当山の石畳道」がある。

石畳が、どのように整備され、どのように祖先が使用し、現状に至っているのかを知り、継承の手立てとなればと考え、「当山の石畳道」について調べてみることにした。

地域を、中学校区域という視点で見ると、小学校近くに「当山の石畳道」、中学校正門前に「おもろの碑」があることに着目し、建立の経緯や、句の意味を知り、伝承できればと思い「おもろの碑」にも触れてみたいと思い、本テーマを設定した。

III. 項立て

- (1) テーマ
- (2) テーマ設定理由
- (3) 項立て
 - 「宿道」について
 - 「当山の石畳道」
 - 「おもろの碑」
- (4) 本論
- (5) 考察・今後の課題

IV. 本論

(1) 「宿道」について

琉球王国時代、尚巴志によって三山統一がなされ、首里城を居城とし、首里に王府がおかれた。

王府時代には、宿次制度が出来、それにより首里城を起点に各間切り番所（市町村・役場）へ向かって、又は各間切り番所から首里城へと、早馬を走らせる体制、宿次ができた。

各間切りには、番所が置かれ、次の番所へと向かう街道が伸び、伝達が届けられた。この街道が、宿道とよばれた。

宿道は、原則幅 8 尺 (2.4m) で両側に松並木を植え、一里塚も建てられたようだ。宿次のルートは、沖縄本島を大きく国頭方 (北部地域)、中頭方 (中部地域)、島尻方 (南部地域) に分け、東海岸沿いに伸びる宿道を東宿、西海岸沿いに伸びる宿道を西宿といい、島尻方は東回りを南風原之宿、西回りを真和志之宿といった。

それにより、南北とも、西回りと東回りで本島が、くまなく継がれるしくみとなった。

中頭方西海道の一部に、第二尚氏、七代目琉球国王尚寧は、首里城と浦添グスク (彼の生家) 間を行事等、事あるごとに往来をしていた為、川にはアーチ型の橋を架け、道には石をはめ石畳道とし、往来が便利であるようにするための整備をした。

それが通称「尚寧王の道」である。

〈宿次と道筋と間切り縮図〉

①国頭方東宿

西原 → 宜野湾 → 超来 → 美里 → 金武 → 久志 → 羽地 → 大宜味 → 国頭

※久志までは東海岸側で、久志から羽地で西海岸に至ります。

②国頭方西宿

浦添 → 北谷 → 読谷山 → 恩納 → 名護 → 本部 → 今帰仁

※羽地へは名護より、大宜味から久志へは羽地より、伊江島へは本部より、伊平屋島は今帰仁から届けました。

③中頭方東宿

西原 → 宜野湾 → 中城 → 具志川 → 勝連 → 与那城

④中頭方西宿

浦添 → 北谷 → 読谷山 → 超来 → 美里



⑤島尻方真和志宿

真和志 → 豊見城 → 小禄 → 兼城 → 高嶺 → 真壁 → 喜屋武 → 摩文仁

※南部の西側をめぐる 摩文仁 (現糸満市) に至ります。

⑥島尻方南風原宿

南風原 → 大里 → 佐敷 → 知念 → 玉城 → 東風平 → 具志頭

(2)「当山の石畳道」

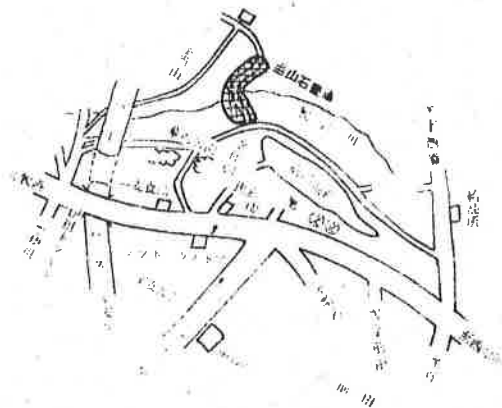
琉球王国時代、首里城から浦添間切り番所を通して宜野湾間切りに至る普天間街道の一部で、1671年に、宜野湾間切りが創設された頃 (第11代尚貞王) 宿道として、石畳敷きの改修がなされた。

「この道はその昔、宜野湾―浦添―首里を結ぶ唯一の道で、いわゆる人々の生活道であった。首里・那覇への農産物の運搬道として、また首里から人や文物の往来路として重要な道であった。」と『市史』第三巻に記されている。

又、「普天間御参詣」は、1644年に尚賢王が国の安泰と無病息災を祈願し、参拝したことに始まり、毎年旧暦の9月吉日に、国王が三司官や家臣を従え、「当山の石畳道」を通ったとされる。

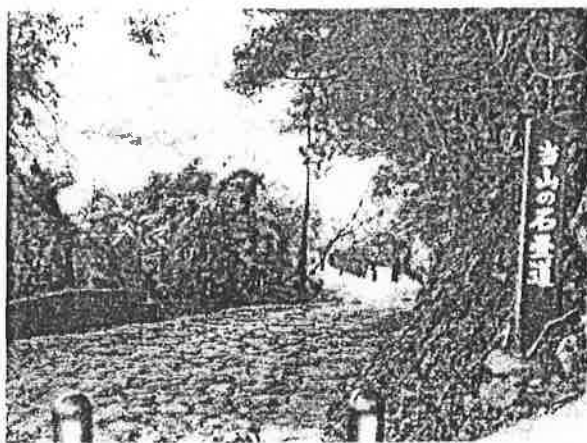


当山の石畳道半ばに石碑が建てられている



当山の石畳道は牧港川を挟んで、南北へS字形に伸び長さ200m、幅3mの石畳道である。

〈当山石畳道〉



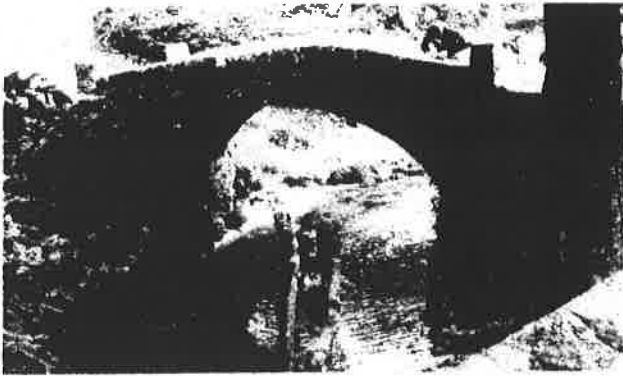
北の入り口



南の入り口

馬転ばし「馬ドゥケーラシ」と呼ばれる急こう配な坂道が両入り口にある。
南口はいきなりの急傾斜である。

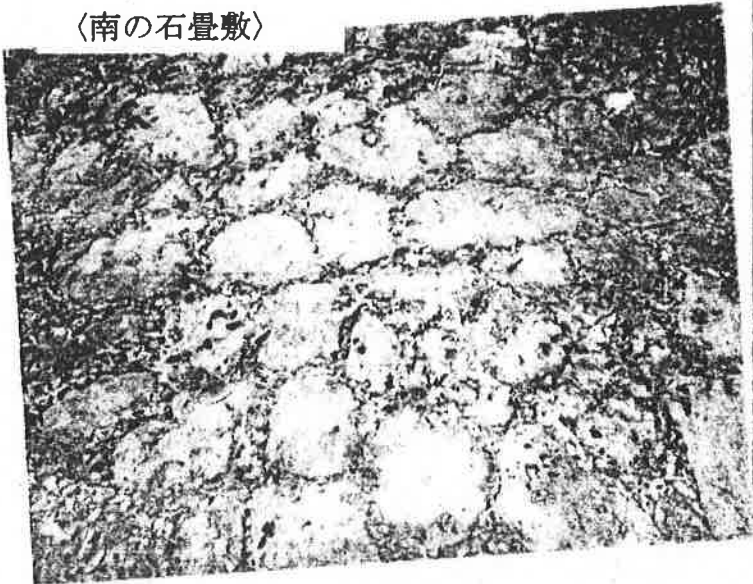
〈当山橋の写真〉



当山橋は、長さ6m幅2.7mの大きさで、かつては木の橋だった。大正時代に石橋に改築したようだ。

架設されている橋の橋脚は自然の岩石を利用しわずかに勾配のついた切石積、中央部がわずかに高い曲線を描いている。

〈南の石畳敷〉



〈北の石畳敷〉



当山橋を挟んで、南側と北側で若干様相が異なる。南側の配石には、ほぼ同じ大きさの石材が横一列に並べられているのが数か所みられるのに対し、北側では、そのような部分は見られない。南側は工期を分け、いくつかのグループで施工が行われ、北側の配石は、一時期に作られたと考えられているようだ。

このように、整備された「当山の石畳道は」、間切り間の通信道、普天間参詣道、周辺住民の生活道として使用されてきた。

(3)「おもろの碑」

「おもろ」とは、神にささげる歌、神への言葉だと考えられている。土地の事、領主、歴史上の人物を讃えたもの、五穀豊穡や航海安全を祈ったものなどいろいろな歌がある。

首里王府は、琉球王国第4代尚清王（1531年）から第8代尚豊王（1623年）にかけて、おもろを記録し『おもろさうし』にまとめた沖縄最古の歌謡集である。

浦添に関するものは、「うらおそい・きたたん・よんたむざおもろ」に52首おさめられている。浦添市は、その中から、浦添に関わりのある「おもろの碑」を、ゆかりのある土

地に9つ建てた。

その中の一つが、地域の浦西中学校正門前に、浦添グスクの王の偉大さを讃えた歌の碑が建てられた。

〈「おもろの碑」に刻まれた歌〉

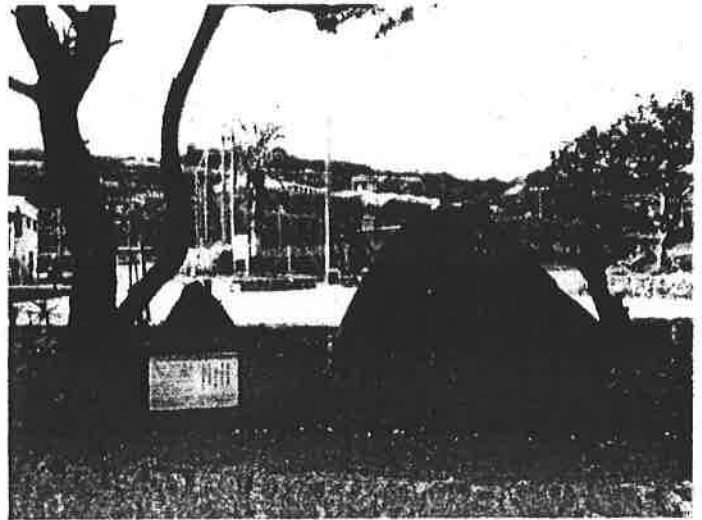
きこゑ あちおそいや
うらおそいに ちよわれば
てだが ほこりよわちへ

又 とよむあちおそいや
世のつちに ちよわれば

〈対訳〉

名高い按司様が浦添に居給えば
太陽が誇り給う

有名な按司様が
世の頂に居給えば



〈解説〉

古琉球の歌謡集「おもろそうし」に登場する神歌の一つです。すぐれた按司様が浦添には居るので、太陽（神）もご満足であらせられる。との意味になります。この様なすぐれた指導者を持つ土地、浦添で浦添の地は祝福されている。との気持ちが込められています。世の頂（つち）は、浦添城の中にあつた聖域で転じて浦添の美称となった言葉です。字西原、字当山からも眺めることのできる浦添城は、グスクであると同時に、古人が深い思いを託した聖地でもあつたのです。（ブログより抜粋）

V. 考察

「地域にある文化史跡を知り、伝えよう」と、テーマに基づき、浦西中学校で読み聞かせの時間を通して伝えてみた。

浦西中学校正門前に、建立されている「おもろの碑」の句の内容は、おそらく英祖王を讃えているであろうということで、王統の始まり、三王統の特徴を話し、その中に「おもろの碑」について英祖王の話の中に織り込みながら話した。

「おもろの碑」が正門前に建立されている事を、知っている生徒は少なく、ほとんどの生徒が知らなかったようだ。

句の意味と、ゆかりの地に建てられた「おもろの碑」について、以下のような感想があつた。

・「おもろの碑」が、何個かから選ばれたのが浦西にあると聞いて、とてもすごいと思った。浦添には、私たちの周りに、こんなにすごいものがあると改めて知ることができました。

・自分たちの学校の近くにも歴史のあるものが、置かれていることを知ってすごいと思った。

・初めて知ったことがたくさんでした。貴重なお話を聞かせていただけて光栄です。

更に、時代を進め、政権交代が行われ、宿道・街道が出来「当山の石畳道」が整備され普天間参詣や生活道として大事な道となった。現在は、国指定の文化財で、祖先から繋ぐ大事な文化財が今後どうあってほしいのか、というアンケートの回答には次のようなものが挙げられた。

- ・「当山の石畳道」は、大切に残したい。
- ・当山の石畳道がこんなにすごくて、大切なものと知ってよかった。
- ・大事な文化財であることをしっかり認知し、未来に継承していくこと。
- ・石畳道にこんな歴史があるんだ、と思った。
- ・自分たちの住む浦添の事をもっと知りたい。

「おもろの碑」や、「当山の石畳道」に関し、伝えることが出来たのではと考える。

また、史跡のある当山自治会に何うと、『「当山の石畳道」&メーガーラ（牧港川）クリーン作戦に参加しよう！』と銘打って、地域ぐるみで清掃活動を行い、環境美化に貢献しているとのことだった。

今回、「当山の石畳道」について調べる中、「現在のところ沖縄（琉球）の「道の研究」は未開拓の分野であり、今後地理学や交通（経済）史などによって研究が進むのをまつほかない。浦添市史第二巻、四五七頁の地図はその一つの手がかりである。この地図は、具体的な道のりが書かれていないので、その他の地形図や、紀行文などからその道すじを探していくしかないであろう。」と記されていることがよく理解できるほど、「当山の石畳道」について、「馬ドゥケーラシ」と云われる急こう配の坂道、普天間街道で王が普天間参詣に使用していた。との写真と説明文が多くあるが、詳しく知り得ることが難しかった。

今後の課題

今後、アンケートの結果も踏まえながら、私の住む地域の文化、史跡等を積極的に調べ知り、いろんな場で伝える機会を持っていきたいと考える。

今回のように、「おもろの碑」を知ってもらうため、時代背景や人物、エピソード的な興味の持てる事等を調べたように、これからも更に、調べ・学びを深め、伝承していければと考える。

参考文献

- ・(宿次経路図)「やんばる国道物語」
http://www.dc.ogb.go.jp/hokkoku/yan_koku/02oufu/22.html
- ・(石畳道の説明) ブログ「昔に会おう旅」
http://blog.goo.ne.jp/tako_888k/e/fd49f04632b49db2b03b0e18ba9f7e3c
- ・(王統の画像)「浦添市ホームページ」
<http://www.city.urasoe.lg.jp/archive/8761234/bunka/bunka/print.html>
- ・『琉球古道』 上里隆史 富山義則 河出書房新社
- ・『当山の石畳道』 仁王浩司 沖縄県浦添市教育委員会文化課
- ・『琉球王統史 1 舜天・英祖王』
- ・『琉球王統史 2 察度王・南山と北山』 与並岳生 新星出版
- ・『おもろの中の浦添』 波照間永吉
- ・NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会 玉那覇清美氏
- ・市民大学講座受講時の資料
- ・浦添市当山区成立八十八周年記念誌 当山 浦添市当山自治会



卒業研究

学部名： 文化教養振興 学部

氏 名： 宮城 良典

1. テーマ

浦添てだこまつりの沿革と課題について

2. テーマ設定理由

今年度開催された、第37回浦添てだこまつりでは、延べ19万人の来場者が訪れた。屋富祖大通りを歩行者天国にして行われた前夜祭、子どもたちが出場するフットサル大会、キックベースボール大会、相撲大会などのスポーツイベント。サマーヤングフェスタ、青年エイサー、老人クラブ連合会によるカラオケ大会、市内外の団体が参加する三大王統まつり、演舞まつり、など多彩なイベントが3日間に亘り催された。

てだこまつりは、他市町村のまつりよりも早い時期に開催されるところもあり、県内にいち早く夏の訪れを知らせるまつりであり、てだこの愛称で親しまれる浦添市にとって大変意義のあるまつりである。

このように、浦添てだこまつりは、浦添市において来場者数や規模など最大のイベントである。しかし、いつから、どのようにてだこまつりは行われるようになったのかは、広く知られていない。そこで、文化教養による浦添振興を目的に、てだこまつりについて研究を行う。

3. 項立て（概要でも良い）

- (1) 研究背景・目的
- (2) 浦添てだこまつりの沿革
- (3) 他市町村のまつりとの比較
- (4) 課題と今後の検討事項
- (5) まとめ
- (6) おわりに
- (7) 謝辞

※参考文献

浦添でだこまつりの沿革と課題について

文化振興教養学部 宮城 良典

平成 27 年 3 月 1 日

要約: 今年度開催された、第 37 回浦添でだこまつりでは、延べ 19 万人の来場者が訪れた。

浦添でだこまつりは、他市町村のまつりよりも早い時期に開催されるとこともあり、県内にいち早く夏の訪れを知らせるまつりであり、てだこの愛称で親しまれる浦添市にとって大変意義のあるまつりである。

そこで、浦添でだこまつりの沿革と今後の課題について、沖縄振興一括交付金の活用、文化振興と浦添振興について考察を行う。

キーワード: 浦添でだこまつり、夏祭り、沖縄振興一括交付金、観光まつり、浦添振興、文化、教養

1 研究背景・目的

平成 26 年 7 月 18 日～20 日にかけて開催された、第 37 回浦添でだこまつりでは、屋富祖大通りを歩行者天国にして行われた前夜祭、子どもたちが出場するフットサル大会、キックベースボール大会、相撲大会などのスポーツイベント。サマーヤングフェスタ、青年エイサー、老人クラブ連合会によるカラオケ大会、市内外の団体が参加する三大王統まつり、演舞まつり、など多彩なイベントが催され延べ 19 万人の来場者が訪れた。

浦添でだこまつりは、浦添市において来場者数や規模など最大のイベントである。しかし、いつから、どのように浦添でだこまつりは行われるようになったのかは、広く知られていない。そこで、浦添振興を目的に、浦添でだこまつりについて研究を行う。

2 浦添でだこまつりの沿革

2.1 第 1 回浦添でだこまつりについて

第 1 回浦添でだこまつりは、「市民自らによる市民のまつりを!」と昭和 53 年 11 月 17 日（金）から 19 日（日）の 3 日間行われた。場所は、市民会館（現在の浦添市でだこホール）をメイン会場に屋富祖大通、城間大通りで開催された。当時は、各自治会、市青年連合会、市婦人会、市老人会、市商工会、市、市議会、市農協、市漁協などのほか、市内の市民団体がまつり実行委員会を結成し、「市にまつりを」と計画を行った。これまで、市には全市民一体となった行事はなく、年々増加する人口に市民意識や連帯感が薄れまともに欠けるとの意見が多かった。[1] このような中で、市民意識の高揚と市民相互の連帯を図ることを目的に次

の 4 つを基調に行われた。

1. このまつりは、市民共通の心の触れ合いの場とします。
2. このまつりは、古都・浦添の歴史、風俗文化を継承し、それを基に新しい市民文化を創造発展させる場とします。
3. このまつりは、各種産業、団体の連帯と強調を密にし、市の経済発展を図る場とします。
4. このまつりは、市民のアイデアを出展、育てる場とします。

この 4 つの基調は現在も、変わることなく開催要項に記載されている。

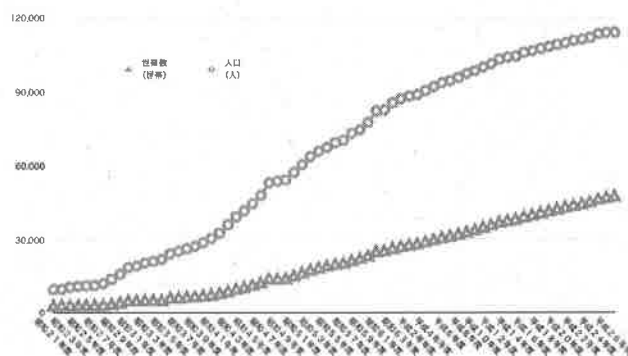


図 1 浦添市の人口の推移

図 1 からわかるように、昭和 44 年度から第 1 回浦添でだこまつりが開催される昭和 53 年までの 10 年間の浦添市の人口増加率の平均は、5.39%となっている。ちなみに、平成元年から平成 26 年の人口増加率の平均は、1.04%の増加率となっている。図 1 と増加率の比較から昭和 40 年代に急激に浦添市の人口が増加したことがわかる。[2]

$$(\text{増加率}(\%)) = (\text{増加量} / \text{増加前の量}) \times 100$$

2.2 浦添でだこまつりのあゆみについて

2.2.1 開催時期について

昭和 53 年に開催された第 1 回浦添でだこまつり、昭和 54 年に開催された第 2 回浦添でだこまつりは、11 月に開催された。現在の浦添でだこまつりは、日照時間が長い夏に開催されているが、当時は秋に開催されていた。その後、昭和 55 年の第 3 回浦添でだこまつりから概ね 7 月に開催されている。例外として第 16 回浦添でだこまつり、第 23 回浦添でだこまつりが 8 月に開催されている。夏に開催されるようになったため、台風の接近に伴う延期や中止については、第 23 回浦添でだこまつりが台風のため延期となり当初の予定から 1 週間後の 8 月 18 日から 20 日の日程で開催されている。

2.2.2 主なイベントについて

第 1 回浦添でだこまつりでは、ミスでだこコンテスト、市内パレード、城間通り屋富祖大通りの歩行者天国、民謡のタベ、てだこ火リレー、舞踊が主なイベントであった。また、第 1 回浦添でだこまつりから第 9 回の浦添でだこまつりまでは、浦添市民会館をメイン会場に行われた。

今年度開催された第 37 回浦添でだこまつりでは、前夜祭：ひいーやー祭々(屋富祖大通り)、サマーヤングフェスタ、文化協会舞台芸能、てだこ火採火式、ちびっこカーニバルゲストコンサート、浦添三大王統まつり、てだこハーリー大会、浦添市長杯ちびっ子相撲大会、サマーヤングフェスタ ダンス、ジュニアフットサル大会、青年エイサー、てだこ演舞まつり、ゲストコンサート、市民総踊りカチャーシー、大花火ショーなどが催された。第 10 回浦添でだこまつりから、メイン会場を浦添運動公園に移し開催されている。

牧港漁港にて、ハーリー大会が開催されるようになったのは、第 24 回浦添でだこまつりからである。

2.2.3 まつり開催予算

第 1 回の浦添でだこまつりは、3,400,000 円の予算で祭りを運営していた。うち市の補助金が 3,000,000 円、残りの 400,000 円は寄附金であった。

回数を重ねるごとに、イベントの量やまつりの規模が拡大し、第 36 回浦添でだこまつりでは予算額 23,931,000 円となっている。内、市からの補助金が 13,000,000 円、のこりは寄附金と出店の出店料で賄われている。

3 他市町村のまつりとの比較

宜野湾市のはごろもまつりは、沖縄振興一括交付金を用いて開催されている。また、平成 26 年度から

豊見城市で行われる、とみぐすく祭り事業も沖縄振興一括交付金を用いて開催されている。

3.1 沖縄振興一括交付金とは

沖縄振興特別推進交付金要項第 3 条中 交付金の交付の対象となる事業等（以下「交付対象事業等」という）及び交付率は次に掲げるとおりとする。

（1）交付対象事業等は、別表に掲げる事業等のうち、沖縄振興に資する事業等であって、沖縄の自立・戦略的發展に資するものなど、沖縄の特殊性に起因する事業等として事業計画に記載されたものとする。

ただし、以下に掲げる事業等は、原則として、交付金を充てることはできないが、沖縄振興にとって必要不可欠である等の特段の事情が認められる場合には、この限りでない。

以下、宜野湾市 平成 25 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】[3] から引用

事業内容 市民意識の高揚と市民相互の親睦を図りつつ、地域の活性化及び商工・観光振興の観点から「はごろも祭り・カチャーシー大会」を支援する。

このように、第三次産業中心の沖縄県に観光振興という沖縄の特殊性に起因し、戦略的發展に資するために、宜野湾市のはごろも祭りでは沖縄振興一括交付金を用いたまつりを行っている。また、豊見城市のとみぐすく祭りでは、これまで 2 年に 1 回の開催であったが、平成 26 年度から毎年の開催が決まっている。

4 課題と今後の検討事項

4.1 浦添でだこまつりについて

4.2 まつりの時期、場所について

浦添でだこまつりは、他市町村のまつりよりも早い時期に開催されることもあり、県内にいち早く夏の訪れを知らせるまつりである。また、てだこの愛称で親しまれる浦添のてだことは、英祖王の神号「英祖日子(えそのでだこ)」に由来するもので、英祖王は、かつて「国王の生まれ出国」と、古謡オモロでうたわれるほどに浦添の名を高めた人物である。「てだこ」は「太陽の子」を意味し、さらに衰退することなく、日々東方の水平線から力強く昇り、闇を切り開き世界を明るく照らし、生きとし生けるものに新たな息吹を与え、万物を活性化させる太陽を表している。

開催場所について、従来は浦添市民会館前の広場をメイン会場に行っていたが、昭和62年からは浦添運動公園をメイン会場にまつりが行われている。図2の写真を見てもわかるように、陸上競技場は来場客で大盛況である。今後も規模の拡大やイベントの増加を行うと、会場のキャパシティの問題と安全面からの問題が出てくることが予想される。そのため、キャンプインザー（返還後の跡地を含む）や西洲のような広大なスペースのある場所への変更についても検討する必要がある。



図2 浦添でだこまつりの来場者の様子

4.3 まつりのイベントについて

浦添でだこまつりの特徴として、市民参加型のおまつりであることが上げられる。屋富祖大通りで行われる前夜祭では、地元からスポンサーを募りカラオケ大会を開催したり、地域の子どもたちによるパレードや大道芸、ダンスなどが繰り広げられる。1日目の日程では、ちびっ子相撲大会、老人クラブカラオケ大会・輪投げ大会、文化協会による舞台芸能、認可保育園の園児によるちびっこカーニバル、三大王統まつりでは王様役をその年に活躍した市民の中から選ばれる。2日目の日程では、ハーリー大会、サマーヤングフェスタ（浦添ダンスコンテスト）、フットサル大会、てだこ演舞まつりでは、市内の団体がそれぞれの演技を入れ替わりながら披露を行い、市民総踊りカチャーシーが披露される。

このように、浦添でだこまつりは市民参加型のお祭りである。第1回浦添でだこまつりについての広報うらそえに記載されていた「市民自らによる市民まつり」が引き継がれながら実践されていることがわかる。

4.4 沖縄振興一括交付金の利用について

沖縄振興一括交付金について考察を行うが、既出のように「市民自らによる市民のまつり」という当初の目的もあることから、単純に観光客を多く集め観光立県沖縄に寄与できる観光まつりを行うことについて、会場のキャパシティの問題や観光客を呼ぶための駐車

可能台数、交通アクセスなどを考えると現在のまつりよりも規模を広げ、浦添市民運動公園で開催することは困難だと考える。他市町村のように、観光まつりとして開催することに抵抗がなければ可能だが、37年間に渡り、市民の手で作り上げられてきた市民まつりを大きく方向転換を行うには、十分な説明や覚悟のある決断が求められる。

5 まとめ

5.1 沖縄振興一括交付金と浦添でだこまつり

沖縄県の振興を目的とした一括交付金を市民まつりへ導入することについて考察を行ったが、これまでの浦添でだこまつりの成り立ちについて考える中で、早急に導入することは難しいとの見解になった。

最後に、浦添振興を目的としたてだこまつりについて考察を行う。

5.2 浦添でだこまつりと文化振興・浦添振興について

浦添市は、若い平均年齢と高い出生率、高い人口密度を持つことから、ベッドタウンであると紹介されることが多くある。また、琉球王国時代よりも古いグスク時代に中山として栄えた。首里城正殿は、百浦添御殿（ももうらそえうどうん）とよばれることから、浦添と言う名称がより古くから用いられていたことがわかる。

このように、平均年令の若さと高い出生率、歴史や文化に恵まれた地域という特性を兼ね揃えていることから浦添でだこまつりを文化振興と浦添振興の柱とし、学校教育の総合的学習などで、市民に身近な浦添でだこまつりを題材として浦添の歴史の沿革や変遷を学び、郷土愛を育む授業を行なうことができる。また、てだこまつりの出演については、地域の伝統的な演舞を持つ自治会にまつりへの出演を促し、地域の伝統芸能を披露する場としての意味合いを強くしながらも、市内で活躍する市民団体による演舞や演目の披露などを取り入れる出演団体の公募なども今後必要となってくるだろう。公募を取り入れることによって、地域で活動する団体の発掘や活動の周知に繋がる。

最後に提案したいのは、浦添市で行われるイベントを単発的に行うのではなく、それぞれのイベントが繋がりを持つことである。

浦添でだこまつりは、3日間の間に多彩なイベントが多数行われている。しかし、イベントが独立をしていて、例としてサマーヤングフェスタのダンスは優勝チームを決めた後に、閉会式の中で表彰式となりイベントが終了してしまう。青年連合会による青年エイサーもてだこホールの裏の広場で開催されるが、メインステージとのやり取りのようなものがない。イベン

トが多数あるがために、独立しているイベントが多いことがある。日照時間が長い夏祭りなので、総合表彰式をまつり中に行うことは困難だが、例えば、サマーヤングフェスタのダンス大会で優勝したチームをまつり最終日の陸上競技場メインステージでダンスを披露したり、「浦添てだこまつりサマーヤングフェスタ優勝者」として、てだこウォークやヤクルト・スワローズのキャンプ、多数行われる総決起大会のアトラクションなどで披露の場を設けることになり、てだこまつりの各種イベントの盛り上がりや、祭り終了後の文化振興、浦添振興に発展していくことができる。

6 おわりに

浦添てだこまつりは、予算規模や19万人の来場者が訪れる市内最大のイベントであり、市民参加型という特徴をもつ市民が一体となれるまつりである。まつり準備やまつり中、まつり終了後のそれぞれの期間では、企業や多数の清掃ボランティアによる協力がある。このような、まつりを裏から支える人たちの存在を忘れてはいけない。



図3 まつり準備（カラーコーンの設置）



図4 まつり準備（電気配線）



図5 ゴミの分別作業 午前6時



図6 清掃ボランティア

7 謝辞

この研究を卒業論文として形にすることができたのは、いつも陰ながら支えてくださったてだこ市民大学事務局のみなさんや、授業のチューターをしてくださった伊芸幸恵さん、多方面で活躍され忙しいながらも講師を引き受けてくださった先生方、幅広い年齢層で楽しみながらも深く共に学んだ同級生の皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げたく謝辞にかえさせていただきます。

参考文献

- [1] 浦添市 “広報うらそえ”, 1978.10.31.
- [2] 浦添市 ホームページ, “浦添市の人口”, <http://www.city.urasoe.lg.jp/docs/2014110103062/>
- [3] 宜野湾市ホームページ, “平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】”, <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/cms/organization/zaiseika/02ginowan24review.pdf>



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏 名：野村 和美

1. テーマ

地域の子を地域のネットワークで見守っていくために
～ボランティア活動からネットワークづくりを通して～

2. テーマ設定理由

今までやってきた浦添中学校でのボランティア活動は、自分の子どもたちがお世話になり、その恩返しができたらと思い、始めたことが3年になりました。その3年間、教室に入れない子どもたちと勉強のこと、将来のこと、体のこと（タバコ）、友達のことなどを聞いてサポートしてきました。

いままでの活動を踏まえ、今後の地域活動として子ども達に声かけ、見守っていく一歩になってくれればということから、地域を巻き込み「三世代交流」の取り組みができたらと思い、このテーマにしました。

3. 項立て（概要でも良い）

I 学校・地域のネットワークづくり

- ①地域・学校支援コーディネーター（浦添中学校）
- ②おやじ・おふくろの会（旧浦添中学校卒業生保護者と現保護者）
- ③ゆんたく会（浦添中学校区保健福祉センター・ボランティア）

II 実践活動の紹介（写真付き説明）

- ①畑づくりとジャガイモ植え
- ②カレーづくり
- ③グランドゴルフ大会
- ④餅つき大会

III 今後やってみたいこと

- ①テーマ「三世代ゲーム大会」実践計画案
- ②目的・活動内容・方法
- ③大会日時・集合場所・対象

IV まとめ

テーマ

地域の子を地域の ネットワークで見守っていくために

～ボランティア活動からネットワークづくりを通して～

地域・学校支援コーディネーター
2015年3月1日 野村和美

I テーマ設定理由

今までやってきた浦添中学校でのボランティア活動は、自分の子どもたちが、お世話になり、その恩返しができたらと思い始めたことが3年になった。

この3年間

教室に入れない子どもたちと勉強のこと、将来のこと、体のこと、友達のことなどを聞いてサポートしていくことで、今までの活動と今後の地域として地域の子に声かけ見守っていく、一歩になってくれればという思いでテーマ設定をしました。

II 学校・地域のネットワークづくり



Ⅲ実践活動の紹介



おやし おふくろの会も
がんばってまーす

固い土も
なんのその



畑づくりとジャガイモ植え①



はや
大き
い
あれ

カレーを
食べるために
がんばるぞ



Ⅲ実践活動の紹介

カレーづくり②



カレー
ライス

Ⅲ実践活動の紹介

グランドゴルフ大会③



2年生経験会で
名譽の称号を生み出
した



イブイブーボールな
んて
子ぶぶ



Ⅲ実践活動の紹介

餅つき大会④



おいしくなれ～
おいしくな～れ～



大根・大豆・のり
いろいろの具ありますよ～



Ⅳ今後やってみたいこと

- 1 目標 ☆ 現在、開かれた学校という中に地域・学校支援コーディネーターが3年前から始まり少しずつ学校・PTA・地域というつながりができている中、家庭では味わえない、三世代ゲーム大会で交流し楽しむ。
- ☆ 知らない人に声をかけられたら危ないではなく自分が住んでいる地域の大人たち(住民)を知る、児童生徒と父母、地域の参加によって自分を見守っている(安全である)地域の人に興味、関心をもって地域の顔を知ってもらう

- 2 活動内容 (1)三世代ゲーム大会の内容として考えられるもの。
6ブースをつくる・・・①イライラ棒 ②ターツ ③玉ころがし ④ビンたて
⑤怪獣つり ⑥方言クイズ(名詞)
- (2)ピエロショー (クラウン・ピアラ)のボランティアでのお願い
- (3)プログラム
- | | |
|-------------|--------------------|
| 9:00～9:10 | 開会式 |
| 9:10～9:30 | 地域の人自己紹介 |
| 9:30～9:40 | ブースの説明 |
| 9:40～10:00 | ピエロショー |
| 10:00～11:30 | ゲームを楽しむ |
| 11:30～11:50 | 閉会式(500ミリの水 飲み物配布) |
| 11:50～12:00 | 片付け |

- 3 方法 (1)実行委員を結成する。
構成メンバーとして、学校代表(職員・児童生徒)、各自治会長(婦人会・老成会)、PTA
地域学校支援コーディネーター、
・コーディネーターと話し合いの場所を設定してもらう。
- (2)必要な係りを決める。
前日(ゲームの準備担当)
当日(司会進行担当・放送担当・ブース担当・三世代グループ分け担当)
- (3)予算
大塚食品株式会社(クリスタルガイザー)の協力お願い。

- 4 大会日時 10月末日(日曜日) 9時から12時
- 5 集合場所 浦添市の学校体育館
- 6 回数 毎年1回
- 7 対象 浦添市の小・中学校児童生徒 浦添中学校校区住民

V まとめ

- (Ⅰ) 早いものでボランティアをして15年、今まで何年ボランティアをしてきたのだろうと 考えたこともなかったが、市民大学の卒業発表をまとめることで 今までの活動や今後の活動を考えていく切っ掛けになりました。 いままでの活動では 地域の一人として子どもたちに何ができるか？ 私の子ども二人が、浦添中学校を卒業した後 少しずつ荒れてきた浦中の状況に悲鳴をあげていた先生方の声に卒業生の保護者と在学生の保護者とでおやじ・おふくろの会ができ、その一つの活動として、朝の7時30分から8時30分 時には10時まで、学校の外に座っている、(教室に入れない)生徒たちと勉強のこと将来のこと体のこと(たばこ)友達のことなどを聞いてあげたり、社会人としてのマナーを話したりとサポートしてきたことで、今までの活動と今後の地域として地域の子に声をかけ見守っていく内容紹介と三世代ゲーム大会計画案をまとめて話したいと思います。
- (Ⅱ) 三人の子どもを育てている間、PTA活動や子ども会育成委員活動をしでいると人と人とのつながりができ、民生委員に声をかけられ2005年(平成17年)社協が主催のキーパーソン養成講座を学びその後、地域ボランティア活動が始まり人生の先輩たちとの出会いで出来たグループ。また、2011年(平成23年)下の子が浦中を卒業した後、PTA役員で活動して来た仲間の集まりおやじおふくろの会がスタートして出来たグループ。その年に市役所主催の子育てアドバイザー養成講座を学んだ後、子育て支援ピースの活動している仲間、子育てに少しゆとりが出来、自分が誰かに役に立てたらと活動している仲間。(ピースの活動は、仕事の関係でストップしていますが、今後つながりが持てたらと思っています)
- (Ⅲ) 畑づくりとジャガイモ植→ジャガイモを植え、収穫、学校の家庭室を借りてカレーパーティー、グランドゴルフ大会・餅つき大会→茶山自治会名嘉山会長の協力もあり、地域と生徒との交流会が出来たと思いました。 今までのボランティア活動をふまえて
- (Ⅳ) 今後やってみたいこと、三世代ゲーム大会計画案を考えてみました。
- (Ⅴ) 今は仕事もあり計画案になっていますが、いずれ実現出来るとよいと思っています、市民大学を卒業しても自分自身を磨いて行くためにも常に勉強だと思っているので、今後も地域の方たちとの交流でつながりをもっていきたいと思っています。



卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏名：國吉 稔・簗毛 美香子

1. テーマ

遊び心の躍動、風と光と人をつなげよう
～「新春たこあげ 2015」をとおして～

2. テーマ設定理由

浦添市の課題の一つに「人口増加と生活スタイルの変化で人や地域のつながりが希薄化している」というのがあります。それは全国的な傾向のようでもあります。

このところ「女性が輝く社会」や「輝く女性」「女性管理者登用」等々、国を挙げて女性たちを輝かせるキャンペーンを展開していますが、女性はすでに輝いているような気がします。私たちは、大人も子どもも多くの人々が輝ける地域を目指して、このテーマを取り上げました。

かつて凧あげは沖縄でもお正月の一大風物詩でありました。子どもと大人が一緒になって大空いっぱい凧あげができれば、どんなに楽しいだろう。遊び心が躍動し、光と風と人がつながる新春凧あげを広く市民と一緒にやってみたい。

そして、凧愛好家には自慢の沖縄伝統凧・創作凧を思う存分揚げてもらい、それをみた子ども達に大きな夢の翼を広げてほしい。

そんな思いで私たちは、てだこ市民大学在学中ならなんとかするのはと、凧あげを計画・実践へと試みました。

3. 項立て（概要でも良い）

1. テーマ設定理由
2. 活動内容
 - ①イメージ
 - ②アプローチ
 - ③計画
 - ④凧づくり
 - ⑤実践
3. 成果と課題
4. まとめ・今後の展開
5. 終わりに

遊び心の躍動、風と光と人をつなげよう ～新春凧あげ 2015 をとおして～

地域・学校支援コーディネーター養成学部
簗毛美香子・國吉稔 共同活動

1. テーマ設定理由

浦添市の課題のひとつに「人口増加と生活スタイルの変化で人や地域のつながりが希薄化している」というのがあります。それは全国的な傾向のようでもあります。

このところ、「女性が輝く社会」や「輝く女性」「女性管理者登用」等々、国を挙げて女性達を輝かせるキャンペーンを展開していますが、女性はすでに輝いているような気がします。私たちは、大人も子どもも多くの人々が輝ける地域をめざして、このテーマを取りあげました。

かつて凧あげは沖縄でもお正月の一大風物詩でありました。

子どもと大人が一緒になって大空いっぱいに凧あげができればどんなに楽しいだろう。遊び心が躍動し、光と風と人とがつながる新春凧あげを広く市民と一緒にやってみたい。

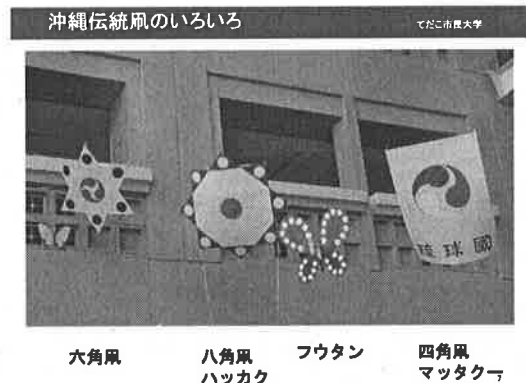
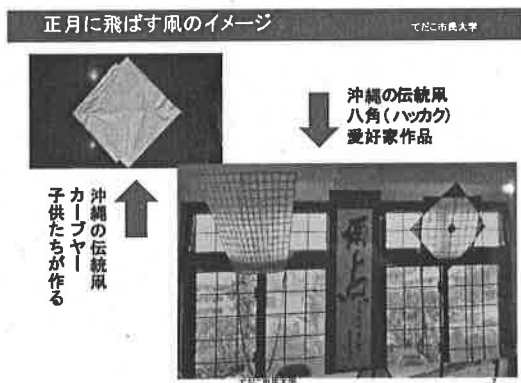
そして、凧愛好家には自慢の沖縄伝統凧・創作凧を思う存分あげてもらい、それをみた子ども達に大きな夢の翼を広げてほしい。

そんな思いで私たちは、てだこ市民大学在学中ならなんとかなるのでは、と凧揚げを計画・実践へと試みました。

2. 活動内容

①、新春たこあげは漠としたイメージからはじめる

時 期：	正月のころ
場 所：	浦添市ど真ん中
対 象：	子ども主役でその家族・仲間と愛好家
凧の制作：	沖縄の伝統凧・創作凧を手作りする
指導員：	全沖縄から実績・経験豊富な凧愛好家に参加していただく
凧の逸話：	凧に乗って人が飛んだ
記 録：	気象観測用としてドイツチームがエレベストより高く飛ばした
凧の実用性：	「フランクリンが雷は電気である」ことを証明した



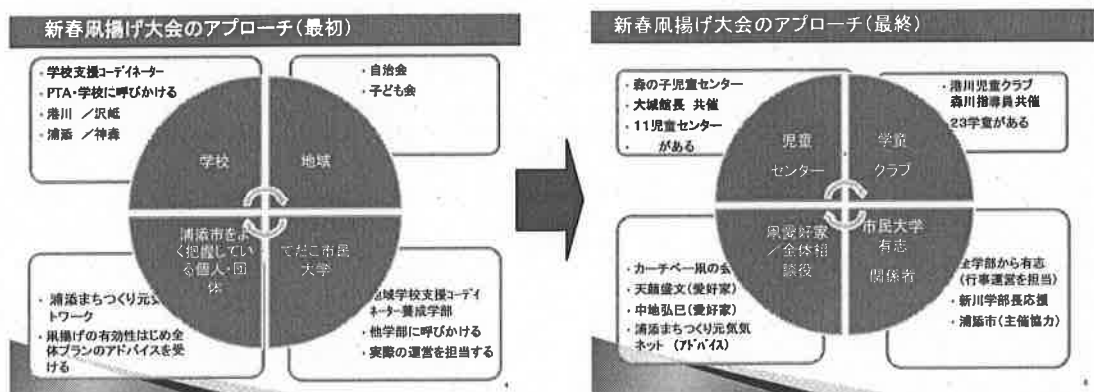
② 新春たこあげのアプローチ

1. 最初は市民大学で講師として来られた学校長や学校支援コーディネーター、自治会長を通じて小学校、自治会の子ども会単位でのアプローチを試みたが対象とする組織の規模が大きく公平性、迅速性、主体性の面から難しいことがわかった。浦添まちづくり元気ネットワークの大濱会長のアドバイスを心得て児童センターと学童クラブの児童を対象とすることとした。浦添市11ある児童センターから森の子(神森小学校)児童センターの大城館長と23ある学童クラブから港川学童クラブの森川指導員を紹介していただき趣旨説明を行なって賛同を得た。

2. 次に沖縄の伝統風・創作風に長けた愛好家へのアプローチ

日本を代表するデザイナー、三宅一生デイレクションによる「アート&デザイン21世紀人」に選出された「どなん飛行機エンデバー号」の制作者を訪ね趣旨説明相談した。賛同を得てさらに「沖縄カーチペーの会」会長を紹介していただき、そのメンバーへと愛好家とのつながりを広げた。児童への風作り指導も取り付けた

3. 最後にてだこ市民大学「地域・学校支援コーディネーター養成学部」での趣旨説明および市民大学全学部、全学年への呼びかけを行い風作り指導補助、写真、放送・音楽などの運営協力者を得た。



③計画

- | | |
|------|---|
| 9 月 | 「新春たこあげ 2015」概要・イメージを作成
浦添陸上競技場借用の仮申請を浦添体育協会へ提出
学部と浦添市有識者との概要協議を行いアドバイスを受ける |
| 10 月 | 趣旨説明を行い、港川学童クラブ、森の子児童センターから協賛協力を得る
「どなんエンターバー号」製作者・外間氏に趣旨説明し賛同得る |
| 11 月 | 「カーブヤー凧の会」会長・池田氏に趣旨説明し賛同を得る
浦添市内凧名人、天願氏、中地氏凧制作の指導を依頼する
企業・団体へ物品・資金寄贈を依頼する |
| 12 月 | 学童クラブ、児童センタースタッフを含む実行委員会を発足
実行委員会で詳細打ち合わせ
てだこ市民大学生への運営協力依頼
港川学童クラブ「カーブヤー凧」作り |
| 1 月 | 森の子児童センター「カーブヤー凧」作り
沖縄伝統凧を浦添市役所一階ロビーへ展示し市民へアピールする |

④ 児童の凧づくり（大人と協同制作）

児童の凧作り、森の子児童センターの場合を紹介する。

一辺 40cm センチの和紙と 5mm、4mm のひら竹、8m の尾っぽに 80m の凧糸が材料。
対象は低学年 12 名、指導および支援者は凧作り名人 1 名、市民大学生 4 名、児童センター職員 2 名、父兄 2 名でカーブヤー凧をすることである。凧揚げをした事のある児童が 2 名で、大人も凧を自ら作るのは初めてである。中心点をとったりバランスよく左右対称になるような作業と糊付けや糸目の取り方など、やり直しもあり大変でしたが自分で作った凧が完成したとき、児童ははやる気持ちを抑えきれずたこを持って走り回った。早く飛ばしたいという気持ちが良く分かる。

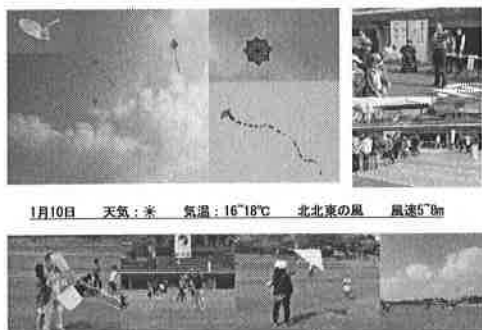
⑤ 実践（凧あげ当日）

当プロジェクトのクライマックスである凧のお披露目・たこあげ当日は正月 10 日（土）に開催した。気温 16 度～18 度、北北東の風・風速 5～8m、晴れの絶好の凧揚げ日和
児童センター 12 張り、学童クラブ 15 張り、一般児童市民 15 張り、凧愛好家 8 張りの約 50 張りが大空に舞った。親がたこを手にして子がたこ紐を持つ。うまくあがると歓声が上がった。陸上競技場全面に広がり全員が走りまわった結果、多くのギャラリーが見守る中で上空 80m まであがり参加者の顔は達成感に満ち溢れていた。一方で、ある児童は他にわき目も振らず自分の凧を上げるのに夢中になった。

愛好家の凧は八角が宙に舞い、鳥のような立体凧が優雅に飛んだ。圧巻は 7 色織り交ぜた 210 個の凧をつないだ伝凧が天に向かって 150 メートルも空高く舞い上がった。

一方で、お母さんたちは、ぜんざいと暖かいコーヒーを作ってくれた。企業や団体からはお茶とヤクルトそして材料代の資金援助を受け、多くのボランティアの皆さまの支援を仰いだ。

2-⑤ 新春たこあげ当日模様



2-⑤ 新春たこあげ当日模様



3. 成果と課題

成果：参加者の声

- 雲の上まで突き抜けて行ってほしい。
- いつものたこよりよく揚がった。暴れてたからリュウって名前にした。
- 連たこは初めてみたけど、210個もあり見えなくなるところまで飛んですごいと思った。
- みんなでやったから楽しい。いっぱい走ったら飛んだ。
- 揚がったけど、すぐ落ちて壊れた。
- 最初は飛ばなかったけど、名人が直してくれて高く飛んだ。
- 寒かったんで、ぜんざいがとてもおいしかった。

課題

1. 凧作りは、作成手順が明確でなく、予定の2倍の時間を要し児童センター指導員へ迷惑をかけてしまった。
*事前準備事項と児童制作部分を明確にした手順書が必要
2. 凧糸の長さを80mと長めにしたため、互いにからまってしまった。
*会場の広さに合わせ、凧の数と飛ばす凧糸の長さ制限が必要
3. 凧愛好家は子ども達の凧揚げ手助けに時間をとられ、自慢の伝統凧を思う存分に揚げるができなかった。
*子ども達の凧揚げ補助員がもっと必要

4. まとめ・今後の展開

子ども達も大人も凧愛好家もそしてボランティアで参加された人も総じて満足度は高かったと思います。来年も是非継続して欲しいとの声が多かったことを受けて次にまとめました。

1. 「新春たこあげ 2016」を 2016 年 1 月 9 日（土）に開催する
2. 会場は小学校の複数校に広げ、同日、同時間に開催する
3. 今回の実践と課題を踏まえて他の児童センター＆学童クラブに横展開する
4. てだこ市民大学に実行委員としての参加を働きかけ、児童センターと学童クラブは協賛する

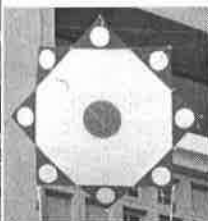
5. 終わりに

てだこ市民大学での二年間、学校長、学校支援コーディネーター、自治会長、NPO 団体、キャリア教育関係者、沖縄県・浦添市行政、琉大ゼミと多彩な講師の方々の講和を受講しました。

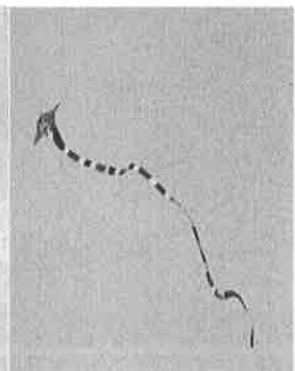
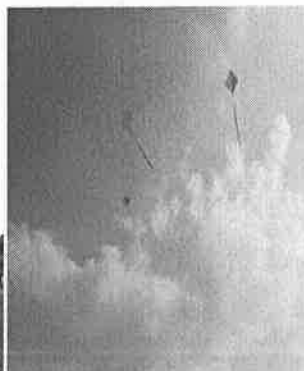
また、学部長からは研究課題のご指導や実践活動指導、生涯学習振興課の皆さまの手厚いご支援とアドバイスをいただき、地域とのかかわりをより深めることができました。

今回の「新春たこあげ 2015」の実施に当たって、國吉は全体企画、凧愛好家との協力取り付け、凧作り指導を担当し、簗毛は児童センター・学童クラブ・浦添市との交渉役を務め役割を分担し、てだこ市民大学生の立場を大いに生かして活動しました。子どもたちの凧作りの様子やたこあげ当日の様子は OCN テレビで放映され、琉球新報と広報うらそえ 2 月号でも紹介、掲載させていただきました。また、今年制作された沖縄の伝統凧「ハッカク（八角）」、「六角」、「マッター（四角）」それに「カーブヤー」は新年の 1 月 5 日から 9 日までの間浦添市役所一階ロビーに展示し、多くの市民にアピールさせていただきました。

浦添市役所ロビー展示



森の子児童センター凧作り





てだこ市民大学

てだこ市民大学第5期生

「卒業研究レポート」概要集

＜第5期生 30名＞

コミュニティビジネス・地域振興学部・・・3名

健康福祉・スポーツ振興学部・・・・・・・・・・7名

文化振興・教養学部・・・・・・・・・・・・・・15名

地域・学校支援コーディネーター養成学部・・・5名

平成27年3月1日

浦添市てだこ市民大学